

(表紙)

三番箱

伊達上

諸家系圖文書

四

諸家系圖文書四

- 一 宮里氏
- 一 志岐氏
- 一 種子嶋氏
- 一 桂氏
- 一 肝付氏庶流
- 一本城氏
- 一 比志島氏支流
- 一 福崎氏
- 一 加世田氏
- 一 柵竊氏
- 一 島山氏
- 一 鎌田氏

一 市来崎氏文書

一 桑幡氏

一 牛屎氏文書

一 牛屎氏

(中表紙)

〔宮里氏系圖〕

107

○紀氏・朝臣氏寺河内國  
西方院号紀寺

○宮里  
系圖・旗幕之紋

○高江  
丸之内達鷹羽也、

人王八代 天皇元正一位 即位六十 卅六年  
△孝元天皇

孝靈十八年誕生、治五十七年、『孝靈第四王子』

諱根子彦国牽天皇 母皇后細姫 五十七年九一崩、

百十六 此時東海南海道踏出、

大彦命 高橋氏祖  
母同、

五十七年十一即位 五十一

以申爲元年、廿二年正太子孝元也、誕生第九、

△開化天皇

諱稚日本根子彥大日

母皇后鸞色譚命 治六十年七月一崩、百十一

倭迹々姬命 母同、

○彥太忍信命

母伊香色譚命

武埴安彥命 岡屋臣等祖  
母埴安姬

○屋主忍雄命

『景行天三癸酉生、在胎八十年 在六代朝景行 成務 仲哀 神功  
應神 仁德棟梁臣 大臣執政在官百八十四年』

○武内宿祢

六代帝大臣賜紀姓、景行天皇三年於紀伊國生ス、  
母影姬又号山下稚大媛、菟道彥女 仁德五十五年薨、  
『一書云、般東夷上落之時、身若  
入甲州、不知死、則歲三百六十』

甘美内宿祢

春 成務天皇同日誕生、

八

木

○木菟宿祢

『執政百余年 大臣在官卅余年 三代執政 應神 仁德』

志和臣

遠那臣 小開子臣

襲津彥

玉田宿祢

葛城氏祖

小柄宿祢

巨勢臣

河上臣

男人

○茲麻臣

武烈天皇臣

○眞咋臣

根咋臣

○小足臣

○鹽手臣  
推古 舒明二代臣

○大口臣

○大人  
正三 大納言  
天知十五六三薨、

○諸人  
贈大政大臣、從一  
依光仁外祖也、  
清人 正五下  
式部太輔

○曆  
正三 大納言  
中務卿 太宰帥  
諸成  
懷姬 光仁母后  
贈皇后宮

古曆 正五下 式部大輔

依曆 式部卿 太宰大貳  
從三 中納言  
廣庭 上総 美濃守  
從四上 參議  
宿奈曆

廣純 河内 薩摩守  
正四下 參木

奈曆

○飯曆

鎮守府將軍 大和 河内 常陸守  
大藏 右大弁 參木從 本名奈良曆  
天平宝字天亡薨、

猿取 從五位上

船守

小野宮本 諸人子也、  
式部大輔 内藏 參木  
大納言 延喜十一四二薨、  
棍長 正三 中納言 五十三  
改勝 大同元十三薨、

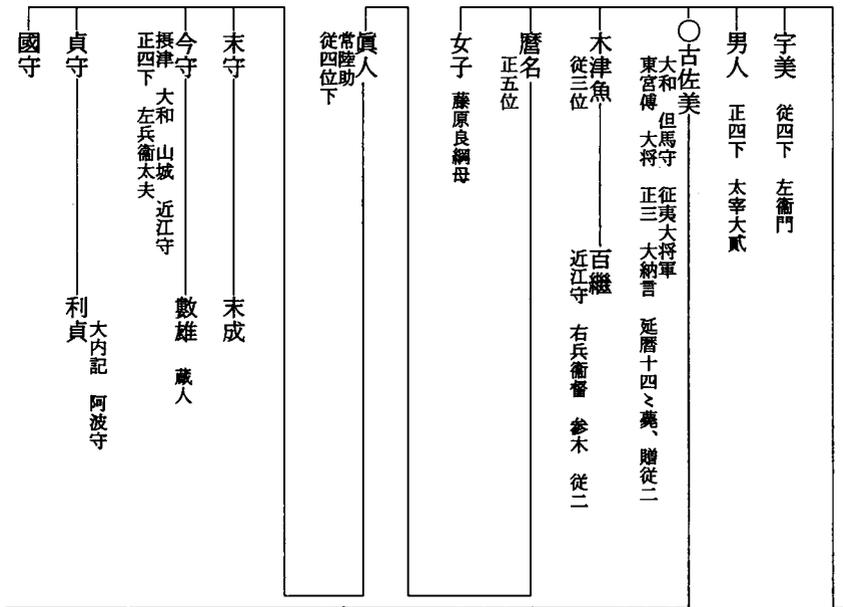
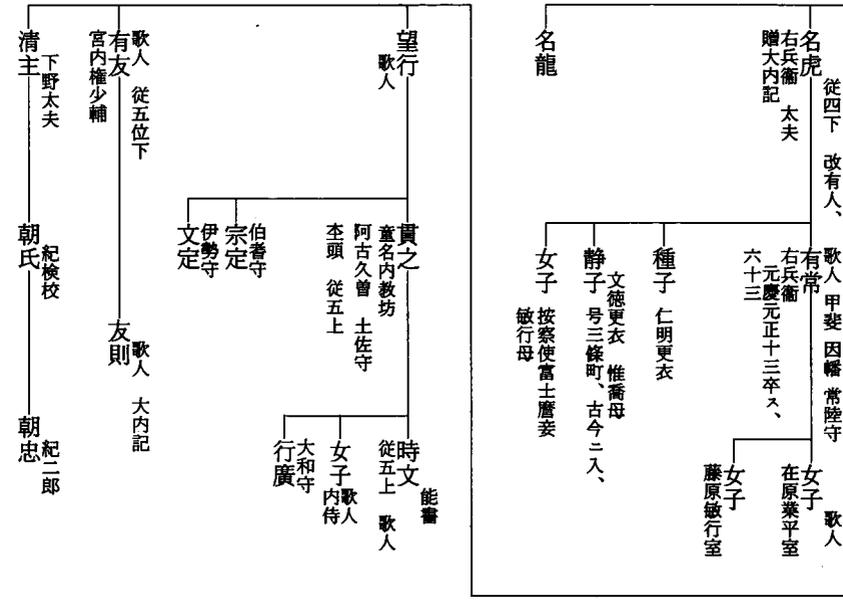
家守

從四上 美濃  
右大弁 内藏頭  
參木

由長 平城妃  
野永藏 深江藏  
永直 但馬權掾

興道

從四下 右兵衛



侍醫 内膳正 池田 池 高井 高藤 瀧口 山科  
大井 品川 潮口 大井田等祖

○廣濱

按察 右大弁 太宰大貳 大学頭 参木  
上野 肥前守 弘仁十二七薨  
末成 從四位下  
大和 越前守

○長江

左衛門藏 式部丞 使從五位下  
善岑  
藏從四下 美濃守  
弘仁四正五卒

春枝 左衛門 李頭 右馬介  
從五上 貞觀十三卒

夏井 幡磨守 正四下  
右中弁 配流土佐、

秋岑 無官 古今二入、  
女子 仁明妃

○豊河  
山城守 從五位下

良舟 小楯  
藏 太宰大貳 正五下

○兼弼  
山城守 從五位下

○御園  
石清水檢校  
彈正大弼

行教 大安寺和尚

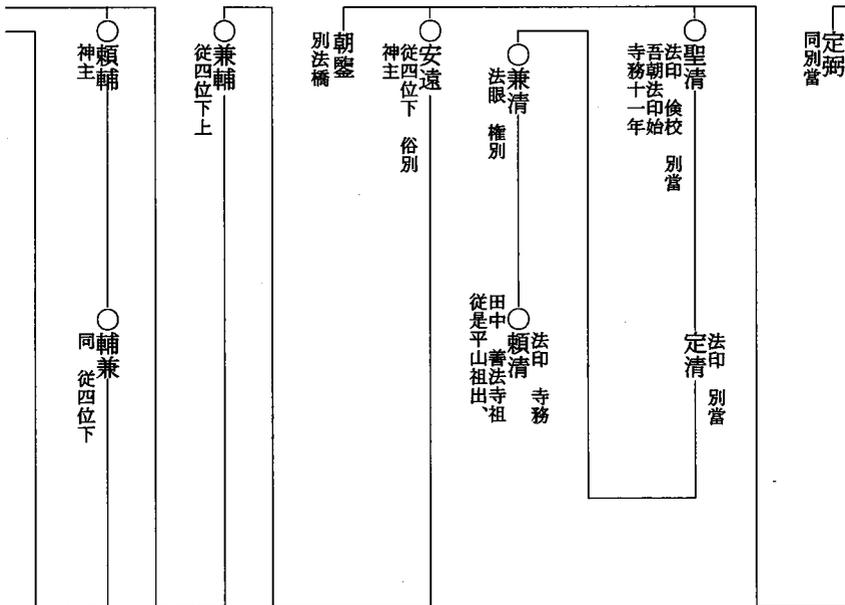
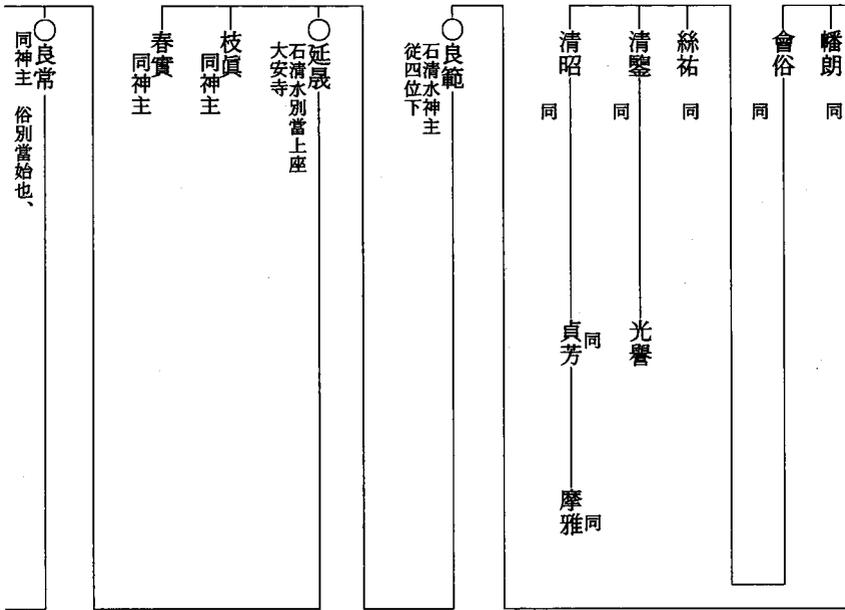
益信 法務大僧正  
東一長者  
号円城寺、延喜六三七亡滅、  
今号本覚大師

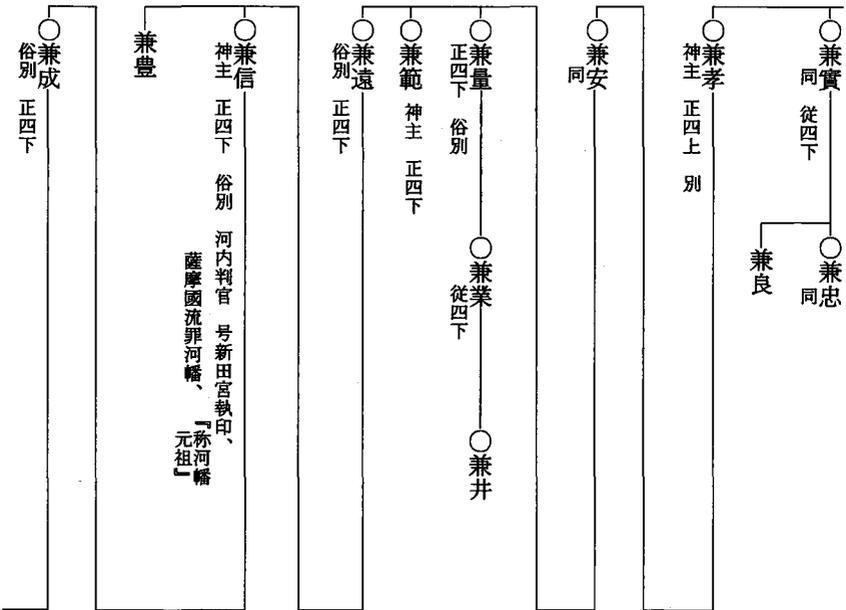
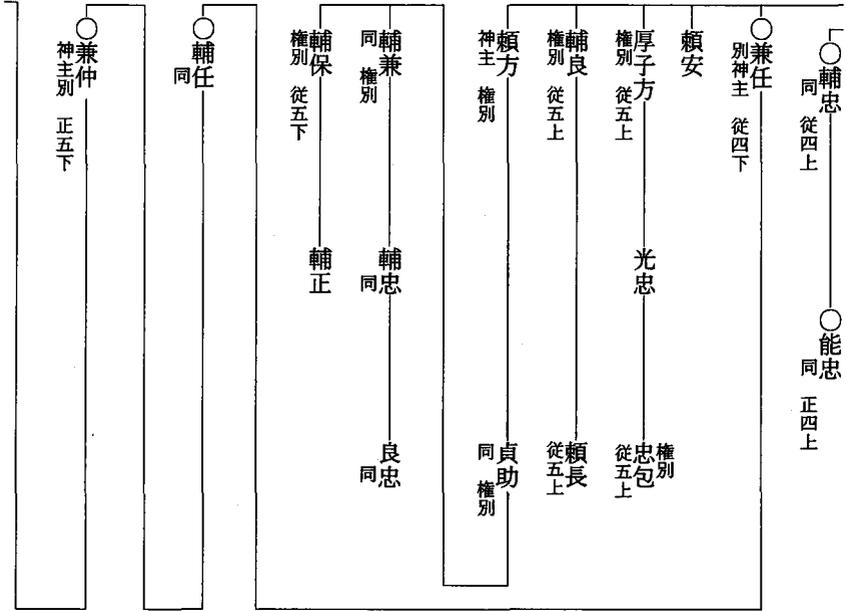
○御豊  
石清水神主始也、  
從五位下

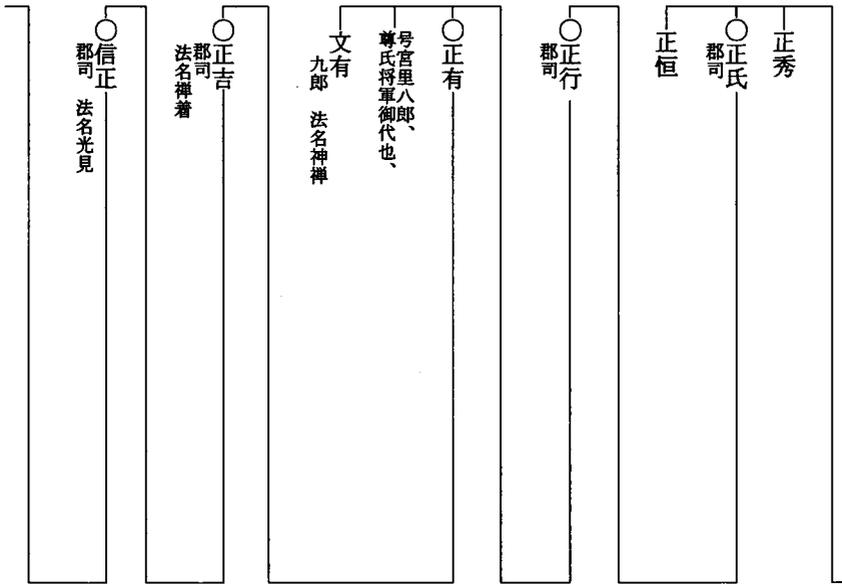
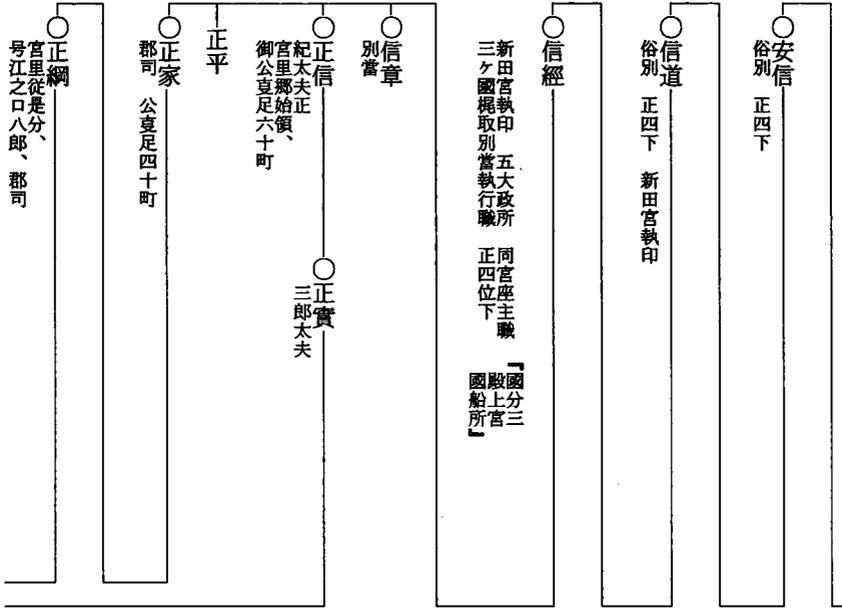
眞濟 東長者  
号柿本、紀僧正

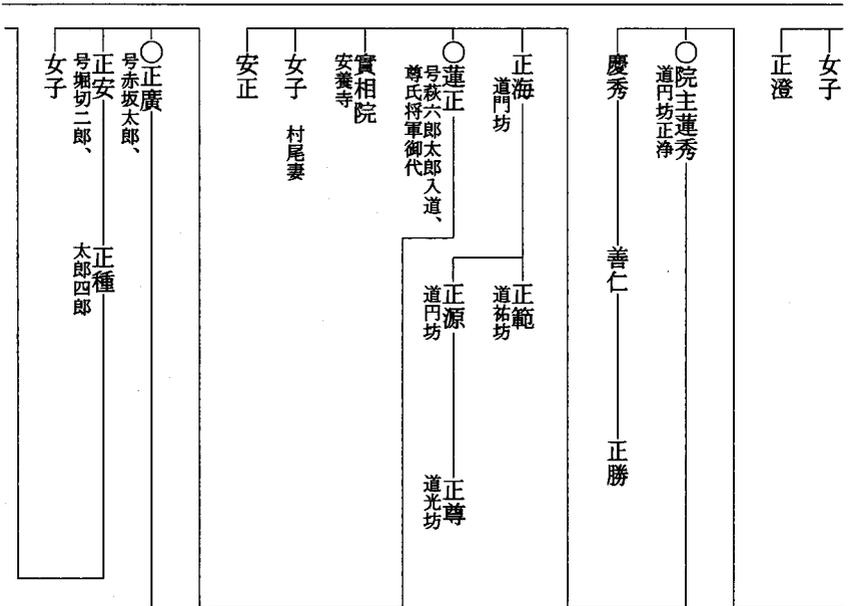
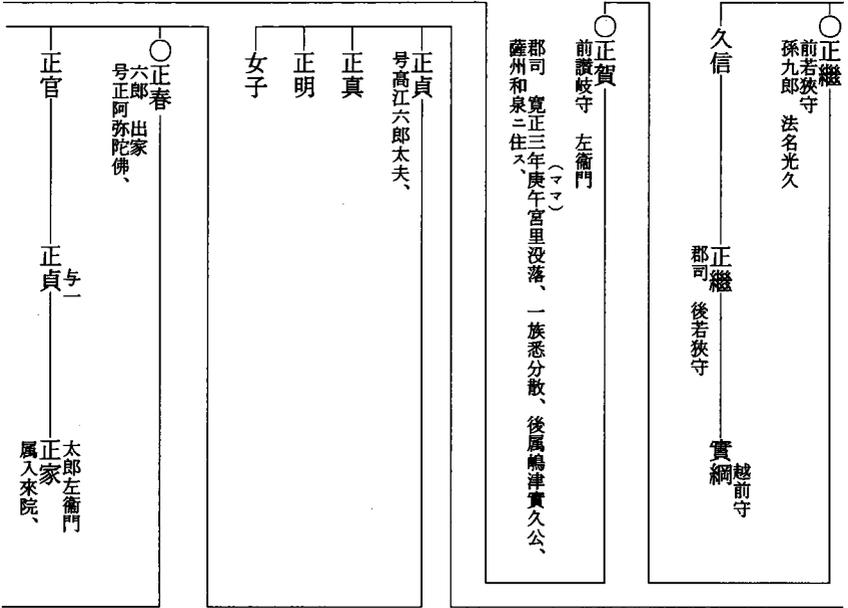
安宗 石清水別當

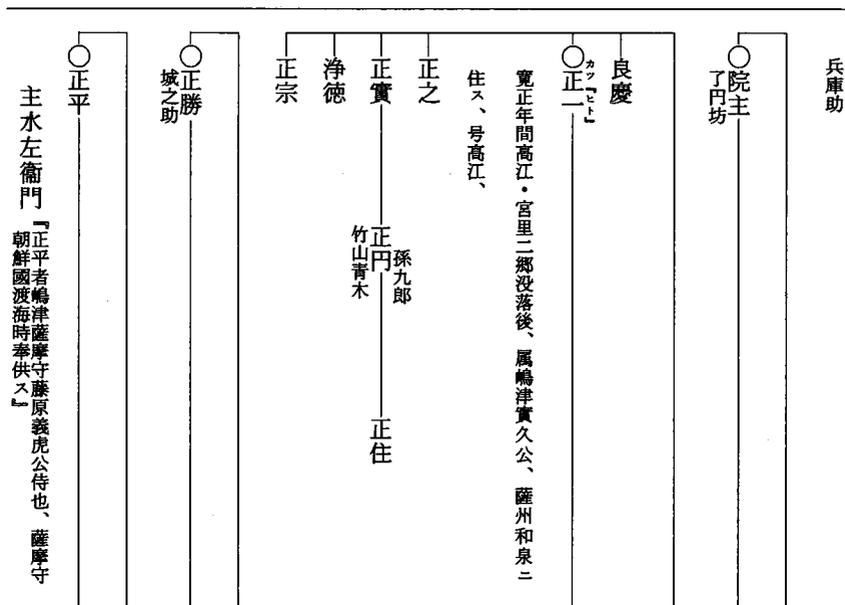
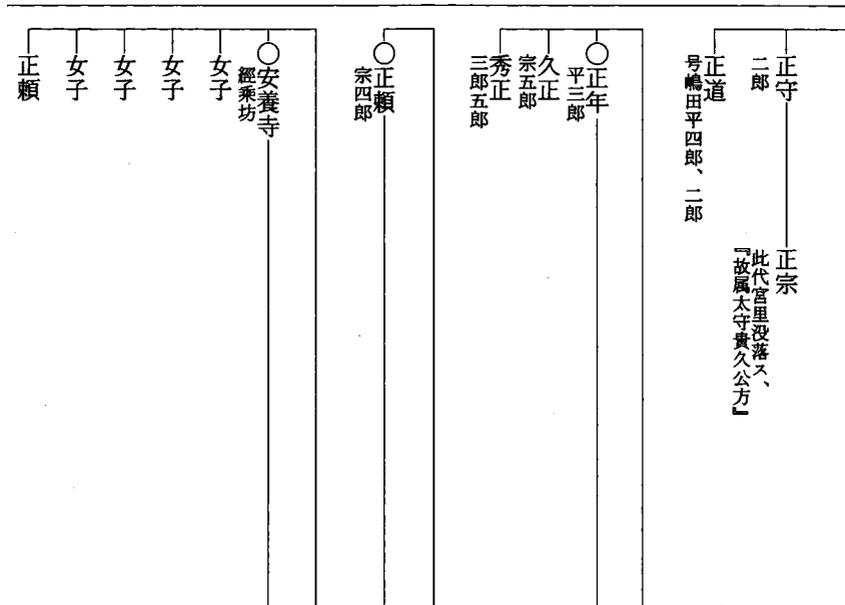
運眞











文祿元壬辰將軍秀吉公於肥州名護屋陣張リ、催日本國中大軍、加藤主計頭清正・小西撰津守行長為兩大將朝鮮國入唐之時ニ雖嶋津薩摩守渡海、未其陣落居之中薩摩守歸陣之故、和泉不知行、家人悉ク分散、慶長年間正平伊佐郡湯田來テ住ス、後亦東郷、其後大村居住ス、『慶長年間和泉没落後、應太守義久公命、東郷為外城時當地住ス、其後大村住、云々』

○正氏

市左衛門  
法名月泉行江

女子

瀬戸口善左衛門妻

○正重

孫左衛門  
貞享四丁卯四月四死去、七十六歳、法名悟慧了心  
母野本但馬守女、承應三年六廿三日死去、法名妙芳蘭室

女子

元和二年丙辰六月十六日生、  
牧之瀬新介平秀真妻

○正辰  
与左衛門 於薩州大村郷

正英

号宮里善左衛門、  
宮里源左衛門為猶子、

女子

高江正右衛門妻

女子

西郷伊左衛門妻

(ママ)

權平  
母ハ高濱五郎左衛門女

女子

千龜助左衛門妻

(ママ)

次郎左衛門

○親正

三郎九郎

女子

○正安

号宮里善兵衛、  
『慶長年間和泉没落後、應太守義久公命、  
薩劔東郷 後ニ薩州大村被移為外城云々』

「正次  
号宮里与右衛門、

○正秀  
源右衛門

○正英  
号宮里喜左衛門  
【早歳号高江、  
晚歳称宮里】  
實高江正重二男、正秀依無實子爲猶子、母ハ徳留三左衛門女

女子  
城下土真方幸右衛門妻

○正岡  
武左衛門

(ママ)

与八郎

女子  
(ママ)

正  
藝之介 武兵衛

女子

正央

喜兵衛

女子

○正剛  
貞右衛門

正純  
武右衛門

吉之助 二歳 早世

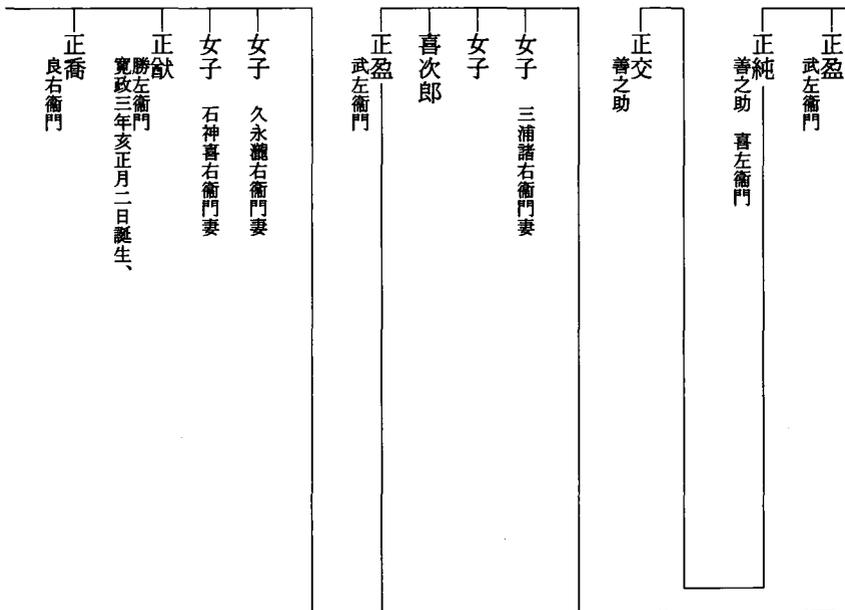
正苗  
喜左衛門 正兵衛

女子

○正易  
弥左衛門 弥五左衛門

正照  
孫八 利兵衛

女子  
時吉仲右衛門妻



「正愿」

喜平次  
文化元年甲子十二月二日誕生、

(本系図ノ人名上ノ「○」・「△」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

(中表紙)

「一此志島源左衛門家

一 新納仁右衛門家

一 志岐氏 一 福崎氏

一 種子島氏庶流三家

一 加世田氏 一 桂彦太夫家

(ハリ紙)

「諸家系圖」

義信

初義方 彦三郎 源左衛門尉 美濃守 法名永昌

○滿家院郡山之内ニテ横瀬・宇都・坂口・満枝等廿町父河内守義重ヨリ讓得、明應四年九月之讓状有、

義住

彦三郎 源左衛門尉 美濃守 ○郡山之内廿町 相傳、

○天文廿二季癸丑十一月朔日於郡山城死、戦死トモ年七十二、法名清久

國守

初義貞 彦三郎 源左衛門尉 美濃守 入道玄心

○蒲生麥刈表一戰中、義住・國守度々抽軍忠、依之弘治三年十月落城之後賜蒲生地頭、自郡山移蒲生、  
○嫡家ニ河内守義貞ト名乗、故改義貞号國守、○天文九年十一月廿三日、有犬追物之時喚次之役相

勤也、○於麥刈有戰功之故、賜大村地頭、

○肝付一亂中、向之島瀬戸在番、肝付入御手之時、大崎ヲ賜國守也、有伊集院掃部介忠倉讓状、

○天文九季十二月二十日於大崎死、法名智雄玄心正

國真

彦四郎 宮内少輔 入道咲翁齋

○兄國守ト同時移蒲生北村、而在住也、

○麥刈一戰有軍功、故賜本城地頭也、

女子

北原又太郎兼親妻

國貞

彦四郎 宮内少輔 紀伊守

○於所々抽軍忠、至 義久公・家久公御世、補家老職、高岡地頭、

女子

中原房妻

國鏡

大膳亮 河田駿河守義朗養子

女子

吉利下總守忠張妻

國隆

彦四郎 宮内少輔

○家久公御代家老職 高岡地頭

○犯罪而被誅、断絶其跡也、

女子

村田刑部少輔經永妻

國治

菊千代 次右衛門尉 主膳

○寛永元季二月二十日生、母稅所但馬守女

○太守家久公命比志島監物範員而曰、枝流宮内少

輔國隆者犯罪而雖為断絶其跡、紀伊守國貞者終

身抽軍忠勤者也、故新恩五百石賜監物範員、依

之二女ヲ鎌田監物政貞二男主膳國治妻、國貞之

為後嗣也、○奉仕 光久公・綱久公、勤船奉行

者十一年、此間御參勤之海路供奉七ヶ度、○大

坂御藏奉行一度、勤御用人江城供奉三ヶ度、御

物産方並金山方・御城下町奉行等兼役、○小林

地頭職

○貞享四年八月十三日死、法名道印心海

國安

内記 「妻新納加賀守忠清二女」

○國安者雖為宮内少輔國隆之子、犯罪而伏誅被

断絶其跡、配流屋久島、經年後依 太守之高

命被赦免為國治之弟家相立也、

女子

新納外記忠鎮妻

國通

市熊丸 彦四郎 伊角

○光久公・綱貴公御代奏者役ヲ勤、賜曾木地頭、

女子

平山八右衛門尉武妻妻

女子

新納助右衛門尉妻

女子

○延宝四年正月廿五日生、

○繼子國英不出生之以前 ○父者新納助右衛門尉

新納主膳二男助右エ門

○堀四郎右衛門尉興昌妻

尉ヲ嫡女ニ妻、雖為養

子、不經多年而死、

國英

菊千代 善八

國能

善吉 主右衛門尉

○國親

彦三郎 源左衛門尉 美濃守

○菱刈靜謐之後、父國守引次ニ大崎地頭ヲ給、

○國親者平生叶兵道軍術、所々之一戰勤役者也、

○於隅州大崎死、法名春叢榮林大禪伯

伊勢姫 比志島嫡家式部太輔義基妻

國家

彦十郎 源左衛門尉

○慶長四年二月、比志島左馬介義興相共參向伏見、

翌年伏見之城攻、関ヶ原乱迄奉公、同五年九月、

關ヶ原引陣之時、泉州平野ヨリ大坂江被遣、御

簾中帰国供奉トシテ下向之海路、豊州之沖為黒

田氏賊船被破味方、此時戦死、

國幸

彦十郎 早世

國興

彦二郎 後号國分喜兵衛、○母上原内藏介久遠

之女

○父源左衛門尉國家討死之後母ハ嫁國分縫殿介友安、故ニ母ニ相付國分家ニテ成人也、

國政

彦三郎 源左衛門尉

○高麗御出陣供奉、於中途合乱氣逐天、不知行方也、

女子

鎌田刑部左衛門尉妻 後は枝大膳坊妻

○國詮

孫四郎 河内守 掃部助

○兄源左衛門尉逐天之故、父美濃守國親之継統也、

○奉仕 義弘公・家久公而御用後 義弘公御隠居之

御家老職、

○薩州吉田地頭 ○正保四五月十七日死、法名喜山

永好庵主

國重

加治木為家臣、号左近、

國明

南郷久八忠吉為養子、号右京忠清、

○國廣

孫二郎 内藏助 母ハ比志島式部太輔義基女

○義弘公元服ヲ給フ、此時御脇指頂戴備前盛光、則奥御

小姓被召仕候、

○父掃部介継名跡被召移鹿兒島奉公也、此時島津下

野守久元・伊勢兵部少輔貞昌之有證状、

國豊

彦六 早世

○國宗

○國高

○國泰

(本系図ノ「○」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

藤原姓志岐氏略系圖

(本系図ハ「諸家系図文書」三号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

平姓福崎氏系圖

四十四代

元正天皇

治世九年、六十九歳御滅給、文武姉、元明

御母、諱氷高、草壁王子也、此御代時百官

仁勞持也、五位六位以下本也、又衣裳ヲ被

定、此時美濃国多岐郡ニ泉ノ如ニ油ヲ湧出、

大地震七日也、

靈龜

二季

和銅

八年九月十日改元、九年乙卯淡海公此時大

臣也、養老此時大隅ムカウノシマ八幡ノツ

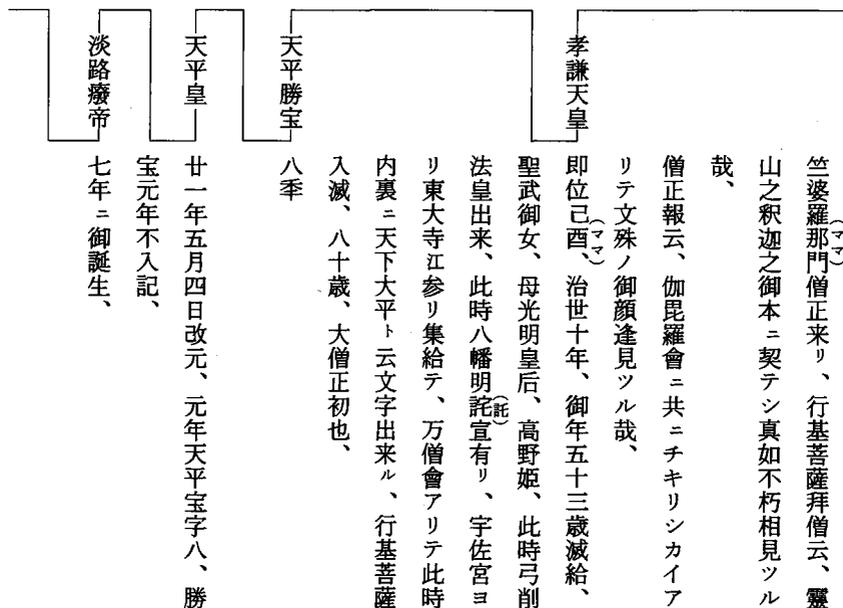
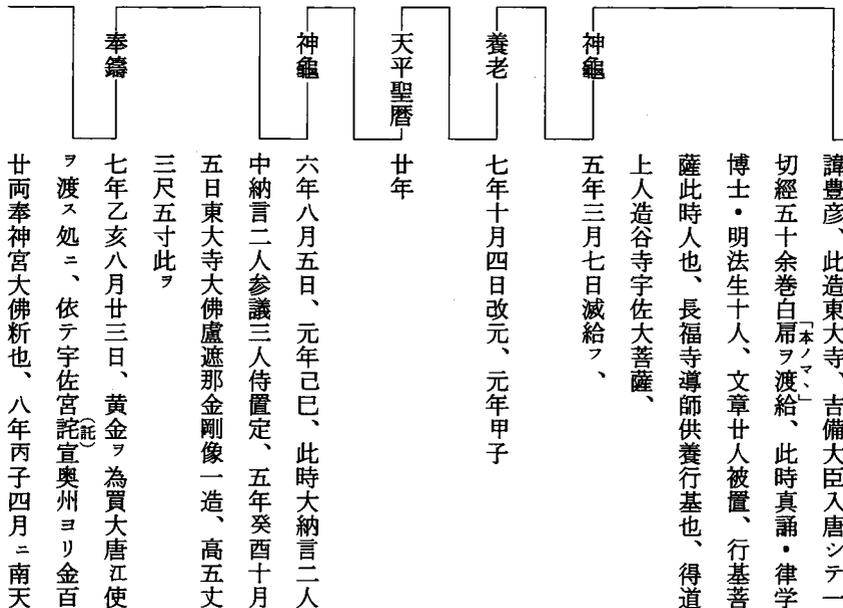
カ也給フ、

靈龜

三年十一月十七日改元、

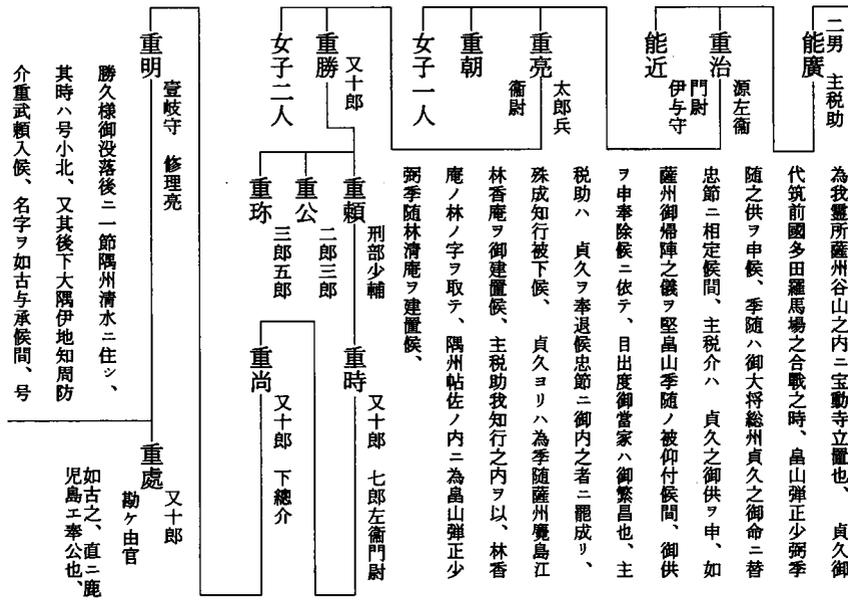
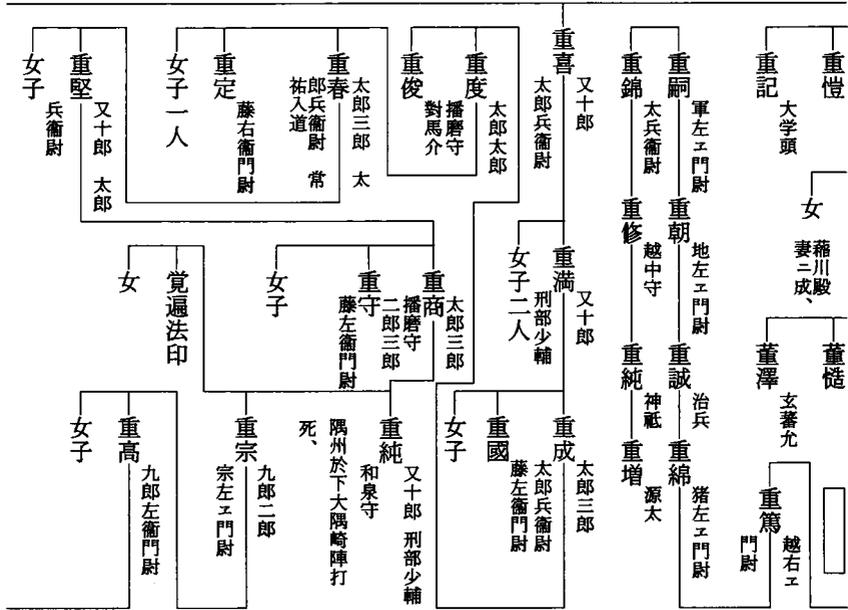
聖武天皇

治世廿五年、五十七歳滅給、文武長子也、



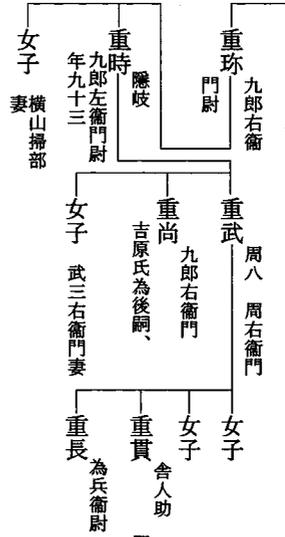






福崎也、

女子 本田又二 郎妻



(本系圖ノ野線ハ朱書ナリ)

品時述

種子島氏十二代武藏守忠時四男出雲守時述系圖

出雲守 ○天文十二年時述企逆意、因テ家嫡惠

時誅之、

○時連

出雲守 ○天文十年生、父時述被誅時連幼稚也、

乳母懷之出種子島蟄居國分之辺境長後奉事 太守 公、自是時連之子孫為 太守公之臣、

○時秀

六兵衛

女子

南郷久八忠吉妻

○忠吉死後奉仕 家久公及光久公、為御局在江戸數十年、公賞功勞賜高三百石、○寛永二十年二月十五日死、

時壽

久三郎 伊兵衛 ○元和九年生、母南郷忠吉

女

○時壽者南郷右京忠清之男也、奉 光久公之高命、嗣祖母之遺跡冒種子島氏、○寛文十年九月七日死、

女子

時章妻 ○時壽無子養之為子、實顯姪右京久友女也、

時章

初久章 權之介 八兵衛

○妻時壽之養女為嗣、實樺山權左衛門久清之二男也、母大野内記久友女也、先是家嫡忠時二男以時定為養子、雖然不緣辭當家、寛文九年三月

光久公賜御庶子松壽君於養子、時壽偲仰盡忠誠、不幸時壽翌年病死、以故松壽君同十二年辭當家、依是時章奉 公命繼時壽之遺跡、實樺山久清二男也、

○時章生二子、延寶八年七月有故時章辭當家復本姓、後續阿多吉兵衛義正之家、号阿多善内義知、

時真

伊右衛門

安千代

早世

時良

六郎 ○早世

時次

長十郎 ○早世

○時昌

内記 ○元和八年生、

○時秀之二子蚤死、依之為後嗣、實村尾右衛門兵衛二男也、

○延寶四年三月十二日死、

○時意

千二郎

○慶安二年生、母市来早左衛門女

女子

時喜

正兵衛

○寛文二年生、母同前、

(本系圖ノ人名上ノ「○」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

種子島氏支族美座對馬守時里二男國上氏系圖

時里

時晟

嫡流不出家督家

對馬守

三郎五郎

對馬守

時宣

時通

大和守 号國上氏、

能登守

出家

女子

○天文六年生、○宗家時堯之息女、為 義久公之簾

中為一之臺奉事 公、簾中逝去之後闈門之治令一

臺掌之、恩過以厚時賞多年之勞賜小濱村千石之采

地、其外恩惠不可勝計、元祿五季八月十五日死、

建寺於小濱村号見隆寺、安置實明存忠庵主之尊牌

及石塔、

時盛

主水佐 ○天正四年生、

○時盛者伊勢長門守貞清之二男也、一之臺蒙恩免養

育之、為嗣子系時滿之兄、自是世々時盛一流為御

直士也、

時滿

子孫有嫡家

二郎右衛門

時章

子孫有嫡家

時住

甚四郎 ○慶長十三年生、母阿多周防介忠春女

○寛文元年(マ)死、

貞隆

早左衛門 ○祖父伊勢貞清分讓所領、故冒伊勢

氏、

時貞

十郎 次郎右衛門

○元和六年八月十一日生、母東郷肥前守重信女

○實和田讚岐正貞之嫡子、為時住之養子、

○正保四年十一月十三日於武州王子村犬追物張行之

時列射手、

○時貞善御馬且為鉄炮之師範、○寛文二年「六月十五日」賜久志秋目地頭職、

○至時盛・時住及時貞冒北條号、寛文六年家嫡久時令時貞為種子島、

女子

蘆谷助之丞時安妻

女子

八木長次郎氏信妻

○時春

七右衛門 主水 二郎右衛門

○慶安二年四月十七日生、

○貞享元年十二月賜高原地頭職、同四年轉補羽月地頭職、

正照

助右衛門 十助 ○叔父和田十助正弘養子

○時方

虎千代 二郎右衛門

○延寶四年生、母五代采女友昌女

女子

三次郎

(本系四ノ人名上ノ「○」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

種子島善左衛門家系圖

種子島氏支族河東尾張守時定八代因幡守時儔男

時近

時適

子孫不出家督之家

太郎左衛門

太郎四郎

女子

○種子島時堯之息女為 太守義久公簾中時為局役奉事

公、天正十五年六月 秀吉公西征之時 公之御女龜

壽君為質上京時為局奉從之、同十八年再上京、是時

亦扈從屢抽忠貞、公賞其勤勞、賜御感牘且賜御高

三百石而立後、

○慶長四年己亥九月廿一日死、

○時弘

善左衛門 土佐守

○實最上長門守二男也、御局蒙 義久公恩免、以時弘為養子立後、自是此一流為御直子也、(王力)○太守公賜肝付郡百引地頭職、

○寬永七年六月十二日死、

女子  
時常妻 覺左衛門時次母

女子  
初嫁伊地知左右衛門重政、離別後姉死去、以故為時章妻、(常力)

○時常  
善左衛門 入道日永 ○天正七年生、

○實阿多掃部介二男也、為時弘養子、

○延宝五年九月九日死、

女子  
汾陽榮右衛門妻

時次  
新八 覺左衛門 ○元和九年生、母時弘嫡女

女子

野村太郎兵衛妻

女子  
赤松諸兵衛妻 後離別、

○時豐  
松千代 新助 善左衛門 ○寬永十七年生、時(母脱力)

弘二女

○時豐初相續阿多甚左衛門之家有年、時兄時次死無子故辭彼家連續當家、○元祿四年二月十五日死、

女子  
母同時方、

○時方  
松千代 善左衛門

○寬文九年八月廿八日生、母(ママ)

○到時弘・時常・時豐及時方冒北条号、宗家久時誠越其等、令時方為種子島、時元祿八年正月上旬也、

時次  
善右衛門 ○母同、

○元祿五年六月十二日死、

「女子

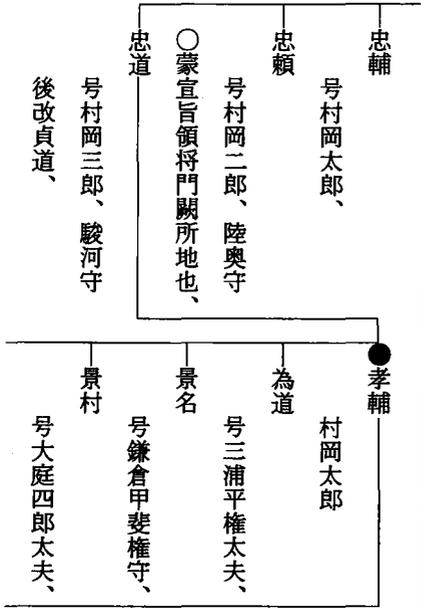
(本系図ノ人名上ノ「○」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

平姓加世田氏系圖

桓武天皇五代

良文

号村岡五郎大夫、鎮守府將軍 号大君、



○源頼光朝臣四天王一人也、「景通

号鎌倉權頭、

貞時

從五位下 号伊佐平次、

大宰大監物

○薩州下向、

兼輔

●良元

季元 大宰大監物

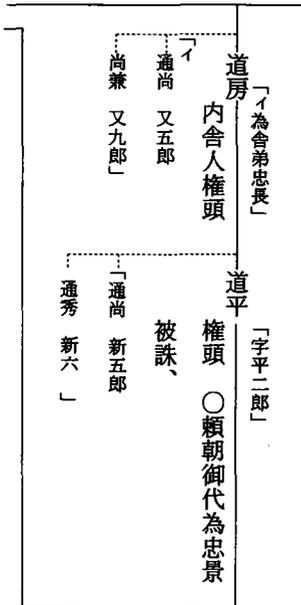
從五位 号阿久根平五郎、

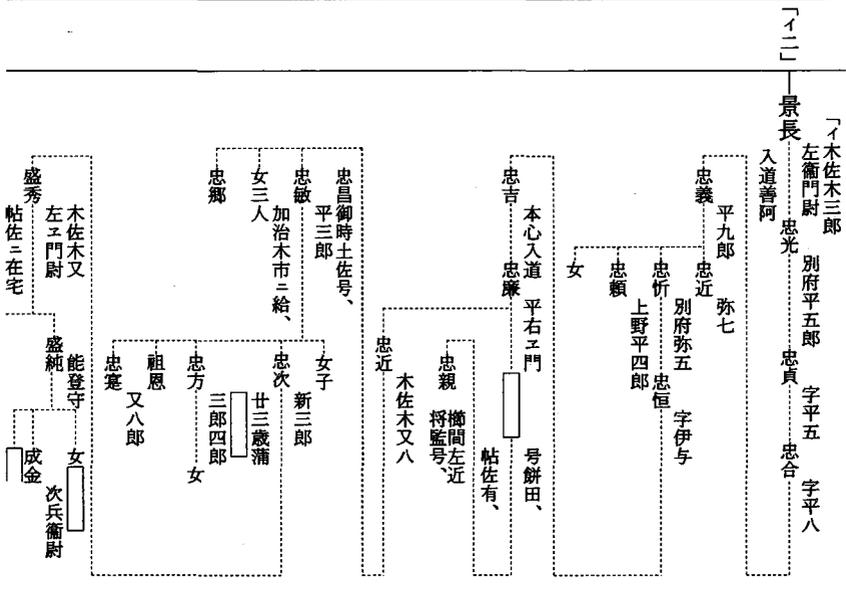
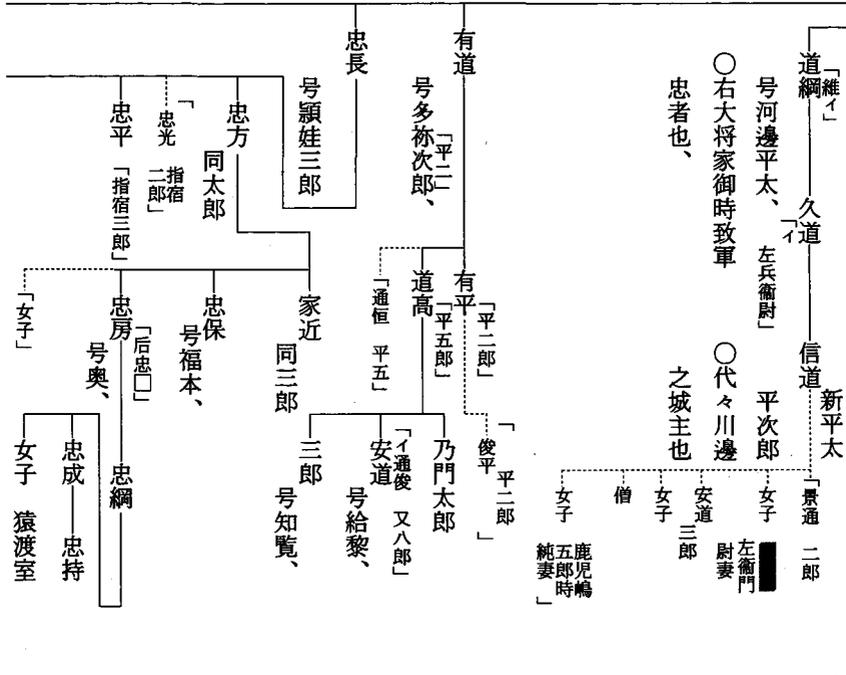
「忠通イニ」 良忠

平七大夫

「イ通」 号川邊平次大夫、

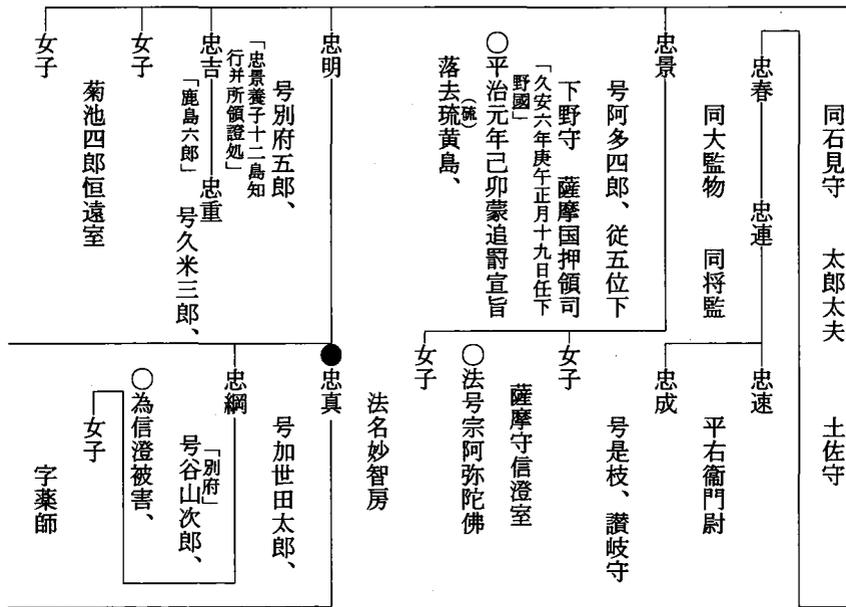
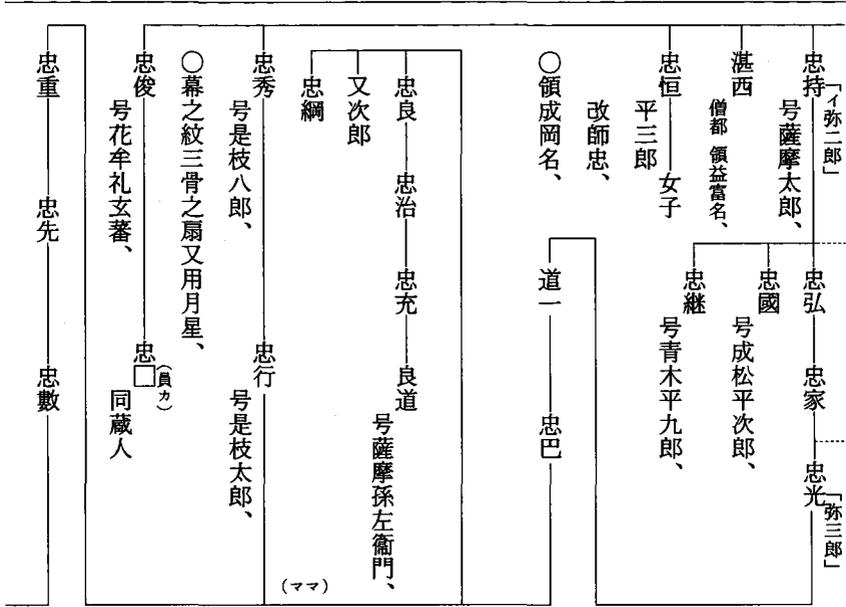
兼通 為助通



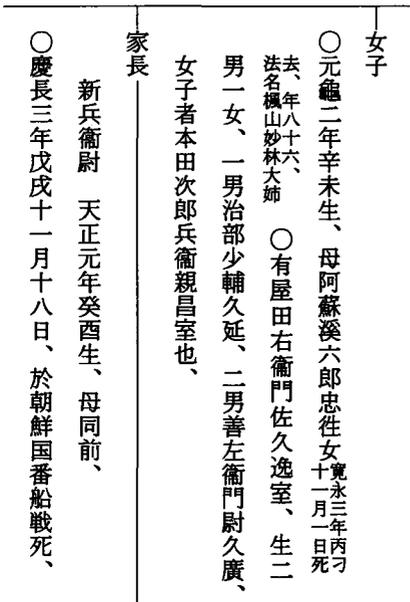
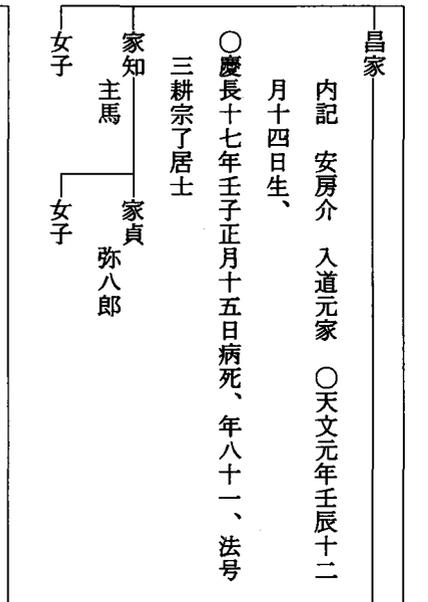
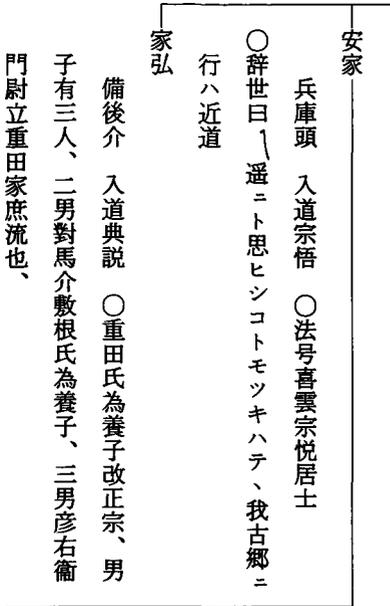
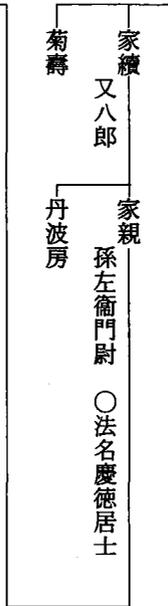
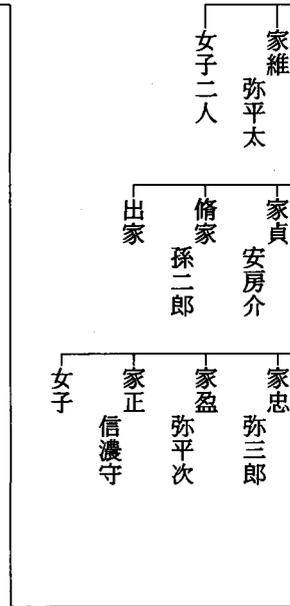


(ママ)









年二十六、法号梅巖清香居士

景昌

新藤兵衛尉 ○天正六年戊寅五月廿四日生、母

同前、

○兄家長於朝鮮国逐戰死、依無子而為後嗣、

景昌

新藤兵衛尉

○寛永廿年癸未十月十九日死、年六十六、法号繁翁

栄昌居士

女子

○慶長六年辛丑六月十六日生、母桶本筑後守實慶女

元和七年辛酉六月廿九日死、  
年四十九、法名長寛妙栄大姉

○鎌田吉左衛門尉政親

室

景貞

内記 ○慶長九年甲辰十一月廿八日生、母同前、

○寛永十九年壬午三月三日死、年三十九、法号隆庵

浄盛居士

景晴

次兵衛尉 ○慶長十二年丁未九月廿一日生、母

同上、

○元禄三年庚午正月六日死、法号昌龍宗繁居士

景親

五兵衛

休左衛門

金右衛門尉

○慶長十八年癸丑二月三日生、母同前、

女子

池田次郎右衛門兼良室

○寛永元年甲子十一月九日生、母山口七兵衛尉女

景純

正右衛門尉 ○寛永十年癸酉四月五日生、

母同前、

景定

藤七兵衛尉 七右衛門尉

○寛永十六年己卯三月廿八日生、母竹内備前守實經

女也、

景近

次助 彌兵衛 次郎兵衛 ○寛文四七生、母川

田主水佑国豊女也、

○元禄十五年壬午閏八月廿三日死、年三十九、法号

潭禅祖龍居士

女子

母園田七右衛門女 ○元禄十五八四死、法号

鶴雲良白大姉

景明

次助 ○元文四己未三廿一死、五十二、法号

通岩宗普居士

次右衛門

○元禄十五八十三早世、法号月光清心居士

女子

○正徳元年卯七月二日生、母小倉長兵衛女

景經

弥市郎 ○明暦四正廿一生、母讚良權左衛門

尉貞増女

定庸

弥吉郎 ○寛文三十七生、母同、

女子

寛文七丁未十廿六生、母同前、

△景堅

彌四郎 ○寛文六丙午九廿四生、母竹下民部左

工門長秀女

○元文四己未十廿七死、法号傳宗玄心居士

景村

孫兵衛

甚兵衛 早世

△景則

孫兵衛 十兵衛 ○元禄九十九生、母相良次兵

衛女

○寛延二己五廿五死、法号玄雄鐵心

女子

古川半助 妻於長 ○享保十五四廿一生、母兼

田治兵衛女

女子

有田蔵太通嘉妻阿久利 ○享保十七正九生、母

同、

△景次

十兵衛 ○享保廿乙卯十一六生、母同、

○明和三丙戌三十五死、年三十二、法号遠山玄功

△景品

袈裟次郎 次郎太 ○實有田蔵太通嘉二男

○宝曆六丙子三廿八生、母十兵衛景則二女

(本系図ノ人名上ノ「○」・「●」・「△」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

(別紙)

「十八代

加世田新兵衛尉於朝鮮國戰破戰死、

十九代

加世田土佐守

二十代

加世田内記

弟加世田次兵衛別立、

(別紙)

「次兵衛

七右衛門

弥四郎

弥市郎

七右衛門

藤七兵衛

依科断絶、

(別紙)

「七右衛門弟

加世田次郎兵衛

初弥四郎

嫡子  
次助

嫡子  
次兵衛

嫡子  
次兵衛  
初弥兵衛

養子  
次兵衛

折田清七郎三男二而繼目養子  
岩熊

(別紙)

「加世田弥五左衛門

初新兵衛

115

嫡子  
弥五左衛門

嫡子  
平七

嫡子  
新兵衛

実弟二而繼目養子  
新兵衛  
初源助

末之次兵衛二弟二而養子  
次助

嫡子  
次助

桂彦太夫家系圖

桂氏五世太郎兵衛忠詮三男

忠増

始忠益 久二郎 外記 太郎兵衛

○天正十九年辛未三月廿八日生、母上井武藏守董兼

女

○寛永十四年丁丑二月七日死、年四十七、法名虚叟

了寂居士

女子

平田監物宗乘妻

宮千代

亡天八歳

女子

桂外記忠守妻

忠保

菊二郎 中将房 休二郎 内記 李之助 薙髮

号如金、又改鐵巖、

●忠守

初頼張 彦三郎 外記 八左衛門

○慶長十九甲寅七月十日生、實仁礼藏人頼景三男、

母伊地知四郎兵衛重賢姉 ○忠増為忠守於養子、

而後直子忠保生ス、故頼景乞違變、忠増曰、雖婦

仁礼氏可為「ト云テ」二男家、分食田立二男家、時寛永十四

丁丑二月依 家久公ノ恩免也、○家久公御奥・光

久公御遊・綱久公御側江相詰、度々江城供奉シ、

拜領御腰物自家久・御筆等、

○吟味役・京都藏奉行・町奉行・琉球奉行・御用人等之勤御役、

○轉補紙屋「明曆三より」・加久藤・横川等地頭職、○天艸入供

奉、

○寛文九己酉有病、時從 綱久公度々命碓山次右衛

門久包尋安否、

○同年六月廿一日死、法号洞然良古大居士、号郭照

院、

(ハリ紙)

「○明曆三年丙申紙屋日依為境目立外城、此時忠守始補地頭職、

○寛文元年辛丑十二月十四日轉紙屋、賜加久藤地頭職、

○同二年壬寅二月晦日、轉補横川地頭職同八年九

女子

新納喜右衛門久盛後久妻 母桂太郎兵衛女寛永十七

庚辰七月廿二日死、法号芳秀妙桂大姉

○寛文十二壬子閏六月廿六日死、法号月皎貞心大姉

女子

大島掃部初清太夫久張 忠成妻 他腹

○元文四壬未三月廿日死、法号梅心惟月大姉

○忠崇

彦十郎 八左衛門 ○寛文三癸卯二月十八日生、

他腹

○貞享二年己丑十二月廿一日為御兵具奉行役、

○元禄四辛未二月廿八日死、年廿九、法号玄中哲旨

大居士

○勝昌

始忠常 忠方 三十郎 八左衛門 雜髮号西峯、

○天和三癸亥五月四日生、實大島掃部忠成三男、母

桂八左衛門忠守女

○表御目附中通御目附御殿別當等之勤御役、

○寛保元辛酉七月九日死、法名無參禪関居士、年五

十九

女子

養子 勝昌妻 貞享元甲子八廿四生、母鎌田後

藤兵衛政芳女宝曆三十一死、八月仙良桂

○明和六己丑十二月廿日死、年八十七、法号心藻貞

鑒大姉

女子

深栖九右衛門政常妻、後離別、嫁村田平右衛門

經廣、貞享三生、母同、

○享保八癸卯十二月廿七日死、法号天産芳桂大姉

女子

元禄十五生、母忠崇女 ○正徳三五廿一死、端

然玄正童女

女子

野々山文左衛門住皓妻 宝永二生、母同、○明

和四閏九廿八死、玉輪妙照大姉

勝房

三十郎 宝永七八廿一生、母同、○正徳五九廿

八早世、六ッ、露菊秋芳童子

勝政

十郎兵衛 ○正徳五生、母同、○享保十一八十

五、献御太刀初テ見 太守公、

○享保十九正廿九死、法号潔心金英居士、年廿

○勝行  
初兼明 源兵衛 八左衛門

○実江田源助兼通二男、母伊地知八右衛門重賢女

○寛保元十一為郡奉行、

○宝曆六六五死、五十七、跨山大州、

○勝盛  
母時任明学院義住女

源八 源四郎 彦八郎 彦太夫 ○奉仕繼豊

公・重年公・重豪公御小姓中通御目附御使番  
明和三四十等之勤御役、○寛政九七廿一死十二、獨  
八江戸  
照潔心

勝壽

彦八郎 ○母黒葛原源左エ門兼房女 ○天明二

壬子正廿一死卅、梶寛宗勇

兼富

八十郎 半右エ門 母同、黒葛原半蔵兼雄養子

天明五十三死廿、桂岩久昌

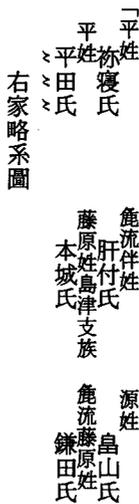
○勝将

初実富 萬治 甚八 彦太夫

○実町田九平太実盈二男、天明六生、

(本系図ノ人名上ノ「○」・「●」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

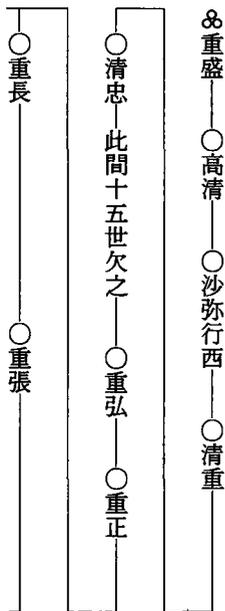
(中表紙)



116

平姓祢寝氏略系圖

清重十七代大和守清  
成 八代右馬介清有十七代あき  
守重張十七代左馬介清平とあり、



右近太夫

右近太夫 安藝守

天正八年三月十六日死、  
文祿四年去祢寢賜吉利  
年四十五 村三千二百石、移入吉

重共 — 重良 利村、

伊賀守 市左衛門

重俊

清右衛門 龜山又兵衛妻

弘祐 女子 近衛信輔公自薩州帰京  
山城坊 之時、從駕而上洛ス、

女子 重常 猪助

女子 新納民部太夫室 与姉共從公上京ス、

○重政

七郎

家久公御代、祢寢七郎重定といふ人あり、此人歟、  
又ハ此親子兄弟之内ニ而も候、然ハ代々系有り、  
重政上下二代、然と不相知候得共系置也、

○重永

七郎 右近

元和八壬戌七月廿日生、母鎌田播磨守政重女、家  
久公御子也、貞享五戊辰八月廿三日死、年六十七、  
法名洞覚英仙

○清雄

清賢 七郎 八郎右衛門 權左衛門 丹波

元禄五壬申十一月九日任家老職、賜役祿二千石、  
同十二己卯在職死、

○清純

徳慈丸 仙十郎 綱貴公五男也、

元禄九丙子四月晦日生、母江田五郎兵衛國重入道  
と用女也、享保九年三月廿五日卒、法名石雲了  
桂

○清方

内記 初徳慈  
享保十九年寅二月死、

○清香

吉次郎 孫左衛門 式部 帶刀 隱居隨鷗

實者島津大蔵久春二男也、

清香依 吉貴公命 公之七男安之助忠<sup>(温)</sup>為養子奉

公之命改称号小松、而安之助ハ兄因幡忠雄<sup>(郷力)</sup>早世故、  
繼彼家也、明和六年丑十二月朔日、轉若御年寄、

任御家老、

天明元辛丑閏五月十八日、豫請被免御家老職、為  
御養料賜高百石之物成、同月隱居、後称隨鷗、

○清行

大蔵 仙十郎 相馬 主税 右近

實者島津大蔵久春三男也、久春家之難為家督、依

吉貴公之命為清香之養子、

明和六丑十二月一日任表御用人表番頭如故、安永九

子七月廿八日轉大御番頭、

117

肝付氏系圖

兼忠子  
國兼

又ハ 左衛門

○文明六年三月一日、弟為兼連、居城肝付郡本城没落、  
而後同十三年辛丑八月十五日、於帖佐総善寺裏自害、  
法名肯堂俊可居士

△兼連

七郎三郎 周防守 法名嶺南忠能

△兼久

周防守 河内守

○文明十九年丁未三月

廿六日居城高山令没

落早、于時兼久十五

歲也、

△兼興

兵部少輔

△兼續

河内守 入道省鈞  
嫡家也、

△兼輔

嫡家也、

兼光

三郎五郎 越前守

○隅州肝付郡大崎城主也、

○兄兼連所行不合兼光之心、是以時々顯懇志加諫言、而敢不承引、

○丁此之時、兼光歸心於守護方致臣忠、迨子々孫々可守此旨云々、

○文明十五年十月二日死、法名善沢心慶大禪定門、建心慶寺於大崎、

兼固

三郎五郎 次郎左衛門 越前守

○文明十八年領隅州溝邊、以故去大崎移溝邊、

兼演

三郎五郎 越前守 称以安、○太守忠兼公仰、

勤家老職、

○大永七年兼演攻加治木城取之、○太守貴久公兼演

江賜加治木、

兼盛

三郎五郎 彈正忠

○貴久公 義久公御家老、兼盛室者貴久公御妹兼寬之母堂也、法名權窓妙英大姉

兼寬

三郎五郎 彈正忠

○兼寬死無後、以故伊集院忠棟入道幸侃三男中将為後嗣、号三郎五郎兼三、文祿四年轉加治木・溝邊・

三臺堂、賜給黎郡内喜入及河邊内宮・清水、依之去加治木移喜入、

○慶長四年春幸侃伏誅申之、兼三去當家移阿多也、

兼篤

兼仍 小五郎 (野カ)野介 伴兵衛 越前守 母者

菱刈兵庫重根女

○兼三去當家、以故兼篤為家統、

○素ヨリ兼篤雖相續當家、幸侃奢權威專妄行、是故

以已三男兼三相續当家、雖然兼篤終為家統、是天門

○兼武

長三郎 彈正少弼 母岩切三河守善信入道可春  
女

○兼屋

兼治 三郎四郎 伴兵衛 母渋谷四郎左衛門重  
将女

○室者 光久公之御妹

兼隆

山伏丸 郷右衛門 本田家之養子

○久兼

兼善 兼方 伴三郎 彈正 主殿 入道活堂  
母 光久公御妹

○寛文十庚戌年八月廿四日、光久公任國老、

○寶永四年丁(考)い正月十三日迄、從 光久公至 吉貴

公在職四十年、○同六年己丑二月八日死、

女子 島津又助忠清室

兼雄 伴助 阿多内膳忠榮智養子

兼次

三次郎 三郎兵衛 丹波 久利

○佐多又四郎久孝養子

女子 町田孝左衛門忠記室 母島津筑前久頼女

女子 比志島彦四郎國通室 母同、

○兼柄

伴三郎 左門 帶刀 典膳 主殿 母同、

○寛文五年巳八月十四日生、

○宝永六年己丑十一月十四日、吉貴公任國老、

○享保三年戊戌三月十七日在職死、

女子 島津頼母久記室 母同、

兼治

郷八 左衛門 用之助 伊集院遠江久照養子

△兼加

左門 典膳 初半藏 母光久公御女

「兼年

初兼輔 小五郎 郷十郎 母同、

源姓畠山氏略系圖

品頼國

畠山中務大輔 入道橋隱軒 領河内及紀伊大和  
兩州、

○盛淳

常陸介 長壽院 有故冒阿多号、

初大乘院盛久和尚弟子出家、住職于安養院、天正

(マ) 還俗、補御家老職、賜蒲生、以來称号如故、

是依 太守義弘公之命也、慶長五年庚子九月十五

日関ヶ原合戦、西国大敗、故 義弘公危命之間、

盛淳請貴公之諱戰死、年五十、法名一超日純庵主、

盛淳一生之忠功略傳、

女子

初為尼住曾於郡念佛寺、後嫁桑畑氏、無程死去、

○忠榮

初忠真 吉房丸 善吉 内膳

慶長三戊戌誕生、母阿多氏女

父盛淳戰死之時三才也、仍母方之阿多甚左衛門家

ニ而被養候故、吉房祖父頼國蒙 太守義久公之免

許附属于家財田園ヲ阿多氏、

寛永十四丁丑為山奉行、同年八月補物奉行、

同(マ) 奉命為琉球在番奉行、野尻・蒲生・指宿・

帖佐勤地頭職、忠榮奉高命勤横目頭今大目付也、

明曆三酉十二月四日死、年六十、法名徳安孝堯龍

徳院、家臣内田平左衛門不堪哀痛之至殉死、法名

実山家真居士

忠盈

太郎兵衛

女子 嫁樺山權左衛門久清二男權之助久  
章、式部國傳代請官以久章為忠盈  
之養子立二男家、子孫畠山孫平太

病者之故不受家督、

寛文十一年(マ)五月十一日死、法名永秋清月

義直

長右衛門

寛文十一年(マ)辛卯八月追慕乃祖之忠死、論撰其祖先

功烈刻石、立牌於鹿兒島大興寺、以人頭揚其聲名、病眼為瞽、故不受家督、

延宝四辰十月五日死、法名禪郭道然

女子 忠朝室

○忠朝

初鶴千代 兼雄 忠長 伴介

正保元申十月廿三日生、母家久公女 實肝付伴兵衛兼屋二男

慶安三刁九月、

光久公來遊于喜入、兄久兼同時

元服、公加冠也、國老島津安藝久雄為理髮、改称

伴介、

明曆三丁酉十月一日、奉 光久公之命為忠榮之掎

養子、号忠長、又改忠朝、寛文元七月十四日死、

年十九、法名源廣宗本、家臣朝倉六兵衛追跡死、

法名<sup>(養子)</sup>山<sup>(養子)</sup>前

義堯

初忠清 松助 源十郎 十左衛門

寛文五年乙巳奉公命雖為阿多伴介忠朝之後嗣改

称十左衛門、改名義堯、延寶五年辭出家復義嗣、

○國傳

松之助 淡路 式部 義次 義元 義扶 基明

寛文七年未十二月四日誕生、母味方權左衛門正信

女

光久公之十五男也、延寶七己未四月十六日、蒙

太守光久公之恩命為内膳忠榮之後嗣、時十四才、

先是忠朝為忠榮之婿養子相續当家、或ハ國傳如

忠朝之後嗣、或ハ國傳為忠榮之後嗣、諸說區々、

不知何是也、雖取初名島津氏正統系圖、如國傳

為忠榮後嗣、則豈省間然候乎、

天和三<sup>(亥)</sup>い八月廿六日為六番組頭、 勤帖佐・川邊・

蒲生地頭職、貞享二丑正月廿八日改称淡路、元禄

十二年己卯年頭正月三日、義元初城内之御座配於

島津織部次<sup>(伊)</sup>勢弥九郎自進上御太刀・馬代銀頂戴

御流酒、同十四己十月十八日、預請テ復本氏島山

氏、先是年頭初之御座配之人數、八朔無進上物故、

正徳元辛卯九月 太守吉貴公新下令、蒙每年八朔

於菊之間可進上御太刀・馬代之命、則自明年八朔  
基明於菊之間進上御太刀・馬代、後倣之、宝永四  
い五月式部(亥)改名、延享三丙子九月十二日死、法  
名歛然院祖印性海大居士、年八十也、

義方

内膳 和泉 貞享二丑生、母新納又左衛門久了

女

元禄十(マ) 十一月三日、奉 命勤稱荷神事鑄流馬

併五勝所謂、同十六年未十月廿五日和泉と改名、

義方名順麟慶海斌号和尚、少経涉経史百家之書、

好属文所集之詩文有五冊傳家、

宝永八卯七月廿日死、年廿七、法名列峯道兄徳玄

院殿

女子 北條織部時成室

女子 島津大蔵久春室

早世之男女三四人略之、

國張

橘之介 基之 善之丞 数馬 半蔵

119

元禄十丑三月七日生、母同、

同十五年六月善之助と改名、

享保(十一カ)午 有故請被流大島、

藤原姓本城氏系圖

中書家久次男

五代之孫本城源七郎、此庶流本城仲治

忠直

初重虎 鎌徳丸 又八郎 源七郎 忠仍「御系

圖ニ忠仍とアリ」

○天正二年甲戌誕生、母樺山安藝守善久入道玄佐女

子、入道喜俊為後嗣、文禄二年冬十一月十日為於(重尚)

朝鮮唐島應 大守義弘公之命、去東郷氏復本姓、

○兄豊久戦死、故日州佐土原為公領、依之忠直以

下之族去佐土原、屈居諸縣郡田尻村之采地、其後

又贅居隅州菱刈郡本城之食邑、

○兄豊久戦死而無嗣故、慶長九年甲辰奉 太守公之

命為豊久後嗣、「雖然為奇病所侵而怒為狂心、由是使長女」

時發狂病不能勤任、使長女妻喜入撰津守忠政之嫡子忠榮、以連續豐久之後、忠直今地於采地一千斛而養病於隅州桑原郡三代堂村踊之内也、慶長十年去本城移此地、○元和七年辛酉五月廿九日病死于三代堂、年四十八、法名然叟清廓居士

女子 中務太輔室 母上井(伊)勢守寬兼女

女子 上原大藏太輔尚演室 早世 母平田(伊)賀女

忠昌

後昌重 又久廣 又九郎 若狹守 諸右衛門

○慶長十五年四月十日生、母日高某女 ○寬永九年之春、太守家久公經日州赴武城、將使忠昌隨尊駕、忠昌奉此命、私謂、日州佐土原者中務太輔家久以來為履之地而舊臣尚存、經過於是地之時村老聞吾(マ)性名、則思舊好而出逼于馬前、然則對故舊不發一辭亦無礼也、至如改姓名、而隨高駕以故於日州高城、以兒玉筑後守達此由高聞、公亦容其言、

而得改称東郷若狹守、翌年四月廿三日 家久公於武陽有高命、忠昌之父忠直於朝鮮唐島、去東郷家如元復島津氏、且亦忠直之兄豐久戰死後、依無繼子而為後嗣、故東郷家断絶ハ尚今也、使忠昌連續東郷氏、是亦出所依奉恐於尊号也、○正保三年十二月為樺山又九郎久尚之養子、改東郷而称樺山諸右衛門久廣、○慶安三年八月十四日死、年四十一、南溪雲涼居士

重經

初忠經 源十郎 多宮 九右衛門

○慶長十七年生、母同、○兄忠昌聞為東郷氏、故号東郷氏、

○正保三年、奉 太守光久公之敕命得兄之讓、号東郷九右衛門重經、為東郷氏家統、後有故蟄居、○延寶二年十一月七日死、年六十三、貳岳道實居士

○重頼

忠頼 源七郎 清左衛門 内藏助

○慶長十九年於菱刈本城生、母同、

○与兄忠昌同為東郷氏、号東郷清左衛門、○寛文三年九月四日死、年五十、法名秀榮清齋庵主

利重

重益 長次郎 惣兵衛 藤兵衛 市左衛門

元和六月十六日生、母同、○兄忠昌・重經難相

續東郷家、忠昌者為樺山氏之養子、重經者有故蟄

居、於是慶安三年秋奉 太守光久公之命、□連續

東郷家□ ○万治二七月十八日於江戸死、年四

十、法名

(通庵全居居士カ)

頼安

初忠清 志賀 源五左衛門

○寛永十八年十一月六日生、母佐多某女

○明曆三年六月九日、依 太守光久公之命、相良内

藏之丞頼章為養子、

○元禄二年八月七日死、年四十九、法名潮音院殿忠

山元義居士

(24) 女子

村尾源左衛門重榮室 母同、

忠辰

虎助 源四郎

○明曆三年正月廿三日生、母おなし、

○延宝六年八月二日、使渋谷周防奉願為亡父忠頼之

家統、国老聞忠辰之其所自出如何、告忠辰者中務

太輔豊久之弟忠直之孫也、国老聞是細大則達 高

聞、公許諾之、而賜忠頼之遺跡於忠辰、因之翌

年十一月朔日拜謁 綱貴公、改源四郎、献上御太

刀・馬代、然処四月東郷氏有曰、故有所訴焉、先

是慶長五年九月十五日、豊久戰死于関ヶ原、而后

佐土原為公領、加之豊久將無嗣子而家断絶、故同

九年奉 太守之命、使舍弟忠直兄豊久之為継嗣而

為家督、雖然被侵奇病、由是使忠直之嫡女喜入撰

津守忠續之嫡男忠榮以連続兄豊久之家、而后忠直

隠居于三代堂、依之忠直之子孫漸及衰微、然冒尊

号、於茲兄忠昌以高命為東郷之後、以故忠頼又雖

不可為其家系、心窮之身而冒尊号、不無其恐故幸

因兄之氏而改東郷氏、如是則忠頼景不為東郷氏、

明今也、改家号焉、菱刈本城者祖父忠直帰隠、且

父忠清生産之地也、以其故延寶九年正月十九日、

奉願以本城為氏、国老以聞 太守光久公、貞享元

年甲子十二月廿二日奉敕命、因以本城定家号、為

嫡家中務久輝之庶流、依是同廿八日献上御太刀・

馬代、

女子

本田次左衛門親興室

藤原姓鎌田支族略系図

家統正春二男

将永

四郎右衛門

此間六代欠之

元久公御子仲翁和尚供奉、将永為福昌寺代官職、

是故此家及子孫、

将連

和泉守

嫡子昌良為昵近、雖然将連一流者不免家統云々、

将通

新兵衛

左近

清右衛門

政常

新兵衛

政共

政貞

早左衛門

為昵近、

昌良

弥八 弥右衛門

了右衛門

弥右衛門

政晴

政平

義久公御代出福昌寺

家為昵近、

将長

与三左衛門

為末田播磨守政重養子也、

政重

号鎌田播磨守、子孫断絶、

政重ハ雖為末田氏、依 公命為将連三男、冒鎌田

氏、兄將長為末田氏之猶子也、

女子

幸太守 家久公生五男五女、兵庫忠朗・市正忠廣・  
右近重永等之母堂也、

政(ママ)

傳左衛門 豊前守

政重有二女無男子、故養豊前守嫁一女、実河村(伊)

豆守秀政二男也、

寛永十五年 家久公殉死、

女子

豊前守妻

政(ママ)

与二郎 傳左衛門 七島悪石へ流罪、

政(ママ)

彦左衛門 屋久島江配流、

女子

黒木仲左衛門妻

120の2

○ 同三男家

○政年

政房 刑部左衛門 尾張守 入道寛栖

○政廣

刑部左衛門

天文九年生、母山田藏人有親女越前有、信事、天正十四

年正月、九州御合戦之時、政廣和睦之使為、令上

洛候而溜  拜領太刀及衣服、

鎌田氏正統ニ前尾張守政年といふ人あり、是ハ文明十

七年於日州櫛間半田迫戦死と云々、是ハ政廣之親政年

ニ而ハ無之候、

121 (本文書ハ「諸家系図文書」六号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

122 (本文書ハ「諸家系図」一号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

永代之相續の状 道性

心ざしあるにて六郎衛門ニ相續之所

一へき雲寺代官職の給分足の夏

一田畠の間

一前田一鶴の上下一國ニ

一おひ田 一さくけのさこ

一たぬき穴 一宮之前同宮の後

一梅のさこ 一なへ田の苦河(マ)

一たにの口 一かうか崎 一油地

一松のさこ 一三十田 一鳥こへのほり町

一島之次第 一小島 一かみのかわら

一池上の島 一時漂の原の島

一なへ田の島 一いやしき

丁ニ  
文安二稔十月吉日 道性(花押)

卯辰  
於子孫まくものん、

舞たる鶴ニ勝草ヲ

マクノ紋ニスユルナリ、

(中表紙)

「写取済也、

市來崎氏

牛屎氏

古文書

123 薩摩國山門院東方高小野里内小長田五反卅事

をやにて候道恵之手より市來崎彦七郎殿方にかの田地を

御さうてんのよし承り候、仍為後證之状如件、  
(①候)

康永四年八月三日 家貞(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」二二〇三号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書七号文書ト同一文書ナルベシ)

平治年中薩摩州下向、

〔道性〕  
光兼（花押）

（本文書ハ「旧記雜錄前編」二一三二六号文書ト同一文書ナルベシ）

（本文書ハ「家わけ六」山門文書五号文書ト同一文書ナルベシ）

125  
讓与

薩摩國山門院内針石小村田島、（原カ）荒野并屋敷

市來崎 園ニケ所、水田高柳北夜中桓元事

舍弟平五

右、秀忠之父讓状備、於山門院郡司職者、依為嫡子秀忠

讓与早、舍弟共可（哀憐カ）隣民云々、依之針原村并屋敷田島等

者、秀忠限永代舍弟平五讓与早、針原村者、随分限可令

勤仕御公事也、而為秀忠子孫、郡司職知行輩、聊令成煩

之時者、平五子孫可申賜郡司職者也、依所讓与如件、

建保五年三月五日

平（秀忠）  
（花押）

（本文書ハ「旧記雜錄前編」二四四号文書ト同一文書ナルベシ）

（本文書ハ「家わけ六」山門文書四号文書ト同一文書ナルベシ）

126  
讓与

嫡子二郎太郎所

薩摩國山門院内城入道屋敷并西桃木田五段事

四至堺者見本證文

右、田屋敷等者、妙義重代相傳私領也、然者相副次第證

文等、限永代讓与訖、有限地頭所役者、任先例可勤仕也、

仍讓状如件、

曆應二年五月十日

妙義（花押）

（本文書ハ「旧記雜錄前編」二〇四二号文書ト同一文書ナルベシ）

（本文書ハ「家わけ六」山門文書二号文書ト同一文書ナルベシ）

127  
讓与

熊松所

薩摩國山門院古城園老所事

一 所古城四至東限田縁 南限田縁 西限川路之 北限城之中道通

一 所宮郷田老町五反内 下白石老町内貳段

一 所高小野名内太郎丸作参段 四至者見本證文

右、田屋敷等、為親父妙義禪門之讓、無當知行無相違、（トヤ）

然間限永年讓与熊松丸畢、致子々孫々無相違可領知也、

仍讓狀如件、

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一〇四三号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一九号文書ト同一文書ナルベシ)

128 讓与 熊松所

薩摩國山門院高小野名内太郎丸作參段事

右、田地者、秀貞相傳之間、無當知行無相違、然間熊松讓与處也、但御公事等者、本證文明白之間、不及註之、任此讓狀致子之孫之永代無相違可領知也、仍讓狀如件、

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一〇四四号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二〇号文書ト同一文書ナルベシ)

129 ゆつりあたふ 彦七郎殿所

さつまの國山門院東方高小野里田地事

合小長田五反川定<sup>四至者</sup>やなきをうへらるへし、

右、田地ハ、道惠重代さうてんの所領也、而彦七郎殿秀雄あさからさる心ざしあるにて、永代をかきりて、ゆつりあたふるところ也、たゞし國か・りやうけの御年貢

以下の御公事等にをいてハ、そうりやうのかゝ表にして、

きんしすへき也、若道惠か子之孫之の中にかの田地にいらんをなし、けいはうをいたさんともからにをいてハ、道惠か子孫として、ゆつる所の所領をちきやうすへからさる物也、仍為後日ゆつり状如件、

康永二年八月三日 道惠(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一〇四四号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書六号文書ト同一文書ナルベシ)

130 和与

薩摩國山門院内西桃木田地并城蘭等方之御季貢以下

所役對捍事

右、云國衙領家乃貢恒見・宮富神用米書生定使得分、云石築地・楯・旗用途、永仁貳季以來一向對捍之間、及上裁雖番訴陳、以和与之儀所經營未濟・對捍代<sup>(物脱カ)</sup>被出驚眼拾結候之間、請取之、止沙汰候早、但自當季<sup>統治者</sup>、有限於應輪所役等者、毎年無懈怠可被弁勤候、仍為向後和

与之状如件、

徳治貳年七月廿七日

山門院地頭兼惣郡司代盛秋

(花押)

(本文書ハ「旧記雑録前編」一一〇七号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二号文書ト同一文書ナルベシ)

131  
ゆつりあたふ

さつまのくに山とのゐんひんかしかた、たかハしのミ  
やうてんちの事

合 今新開参段定、但さかいにハやなきをうふる、

右てんちハ、家高しんふ道恵のゆつりをゑて、たうちき  
やうさういなし、しかるに、(市来崎)いちくさきのひこ七郎殿あ  
ひしたしきうゑ、心ざしあさからざるにやて、ゑいたい  
をかきてゆつりたてまつるところなり、かのところハも  
とより御くうしかゝらざるうゑハ、まんさうくうし、り  
んしのくわやくにをいてハ、一かうとよめて、しゝそん  
くゝにいたるまで、ゑいたいさういなくちきやうあるへ

く候、仍為後日ゆつり状如件、

文和四年二月廿九日

家高(花押)  
家重(花押)

(本文書ハ「旧記雑録前編」二五七六号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一六号文書ト同一文書ナルベシ)

132

まさとみ名のうちのとうゆ田のつほ付事

合

五反 ぬまくち しやけニさる

五反 やなき田 一丁 下しろいし 二反 上ニあり

右、付坪ニまかせて知行あるへく候、仍坪付如件、

かけん三年五月十六日 沙弥しやうしん在判

(本文書ハ「旧記雑録前編」二〇八六号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書八号文書ト同一文書ナルベシ)

133

本正文事

付本名田同奉讓

八幡新田宮御燈免田壹町伍反元二丁、相具次第證文、

限永代字羈王殿所讓与實也、但有限御燈役并宮方公事、

准傍例、可令勤仕欵、仍為後代證文所讓与如件、

延應元年十一月九日 沙弥行念在判

為證人一家加署之、

紀正元在判

紀正恒在判

紀正友在判

紀正光在判

依讓状明白、加署之、

惣地頭并守護所代僧在判

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一四〇二号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書九号文書ト同一文書ナルベシ)

134

遠江守御下知案文

山門弥宗太法師法名如善代子息種友申、新田宮燈油免田薩摩

国宮里郷正富名内田地壹町五反事、

右、如申状者、帶代々證文等當知行無相違之處、下野前

司入道道義扶持人宮原太郎入道蓮心致非分押妨之上者、

可被停止彼違乱云云、仍可催進蓮心之由、兩度雖被仰道

義無音之間、仰下總權守重雄、尋問違背実否之處、如重

雄執進文保二年十一月二日道義請文者、新田宮燈油免田

田事、任御教書之旨相觸候之處、論人宮原太郎入道蓮心

代子息正光請文如此云云、

文保二年十一月二日

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一二四四号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一〇号文書ト同一文書ナルベシ)

135 南方凶徒等、引合于和泉・牛屎賊徒、可寄來當城之由、

有其聞、剩去七月十日將軍家御教書如此、早任被仰下之

旨馳寄于當城、可被致合戰也、仍執達如件、

延文元年十月九日

(島津貞久) 沙弥(花押)

市來崎彦七郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一二六二二号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一七号文書ト同一文書ナルベシ)

136 薩摩國日置内恒吉名田地陸町・同所若松田地陸町地頭職

事、為勲功之賞、所宛行也、早守先例可致沙汰、仍執達  
如件、

延文二年五月十九日

右京大夫(一色直氏)  
(花押)

市來崎彦七郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一八号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一八号文書ト同一文書ナルベシ)

137 薩摩國山門院之内針原之内号高柳 桃木田五反、市來崎之

内園壹ヶ所等事、

可付沙汰市來崎彈正忠之状如件、

明德五年卯月九日

伊与守 (花押)

楠橋對馬守殿

設樂駿河守殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」五三三号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一五号文書ト同一文書ナルベシ)

138 讓与

薩摩國山門院之内市來崎村同北園  
同園新園

一所 西桃木田五反

一所 垣本六反

一所 高一町(高柳)

一所 北夜中田一町

一所 針原之門三町同浮面一町三反

同荒野居敷等

同山門院之内東方

一所 小山田八反

一所 太郎丸作三反

一所 小長田五反

一所 坂本八反

一所 今新改三反同河原田三反

御堂園一ヶ所

薩摩國宮里名之内

一所 白石一町

一所 柳田五反

一所 沼口五反

一とゆう田一町

同島地船津藪

右、親父自秀雄得性慶讓所実也、依為嫡子秀幸讓与畢、  
彼田島等者、至子々孫々、無他妨可令領知者也、御公事  
足者、随分限可令勤仕者也、仍讓状如件、

應永十五年正月十一日

沙弥性慶(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」七七一号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二三号文書ト同一文書ナルベシ)

139 ゆつり状

薩摩國山門院三百五十丁、此内先々高小野之分、龜太郎  
丸ニゆつりあたふ所也、猶末代此所りやうの事、不可有  
相違候、仍状如件、

文安六年<sup>み</sup>つものとの 持家(花押)

能登守殿

進之候

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一三三三号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二三号文書ト同一文書ナルベシ)

140 ゆつりあたる

一よこミねのむら二町一反、このほかてつくり一町、と  
しよりへつしてゆつられ候さい所にて候、

一又くきさこ二町

しはひき一町二反

くはうよりあつかりて候、

かさねての御おんの事ハ、

御心さしによるへく候、

一はく路の事

しもたかうのに三反

なかせう路ニやしき四か所<sup>四田</sup>反

上原のさい所、これ又へつしてとしよりあつかりて候、

末代のさい所たるへく候、

龜太郎丸ニゆつりあたへ候、仍為後状如件、

文安六年<sup>み</sup>つものとの 二月九日

平能登守家教(花押)

又おうくほみそムへ三反

すかむた三反

井てのすミ三反、ひらき二反、合五反、

はく路、しもたかうの山下一か所

(本文書ハ「旧記雑録前編二」一三二四号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二四号文書ト同一文書ナルベシ)

141 「口裏

たいらの彦六殿へゆつり状案文」

ゆつりあたふ子息彦六所

薩摩國山門院東方田島事

一高橋里 口坪四段ノ

つか原九段

むくの木丸六段

かわら田貳段

今新開貳段卅

上平牟田貳段ノ

一高小野里窪田七段

已上參町參段ノ定

但往古より評定有

▽④四至をさすニをよハす△

一高小野やしきの事

東限 立きゝの御前通

四至 南限 田ふちのはたけのまへ

西限 五郎太郎入道給分内田成の給分、同西

かぎね、北南ニすくにとをす

北限 古はゝのかぎねのまへ

(本文書ハ「旧記雑録前編二」一三二五号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書二二号文書ト同一文書ナルベシ)

142 「ス

奉讓与

薩摩國山門院三百五十丁、限永代山門六郎當知行不有相

違、於末代奉讓与所也、可為子と孫と之地也、仍執達如

件、

正平元年三月廿八日

平家高(花押)

(本文書ハ「旧記雑録前編二」三二二二号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」山門文書一三三三号文書ト同一文書ナルベシ)



147 校正了

〔本文書ハ「諸家系図文書」一〇の1号文書ト同一文書ニツキ省略ス〕

148 同前

可令早大秦元兼領知薩摩國牛屎郡司并十一箇里名主兩  
職事

右、亡父國元依受重病、雖不與讓狀、為一子知行彼跡之  
上、不及吳儀、早守先例可令領掌之狀、依仰下知如件、

文永二年十二月廿七日

〔本文書ハ「旧記雜錄前編一」六八五号文書ト同一文書ナルベシ〕

〔本文書ハ「家わけ六」桑幡文書四号文書ト同一文書ナルベシ〕

149 同前

可令早牛屎院司入道元覺跡領知薩摩國牛屎院内知行分  
事

右、守先例如元可致沙汰之狀、依仰下知如件、

元亨元年十月十一日

〔北条高時〕  
相模守平朝臣判  
〔北条貞顯〕  
前武藏守平朝臣判

〔本文書ハ「旧記雜錄前編一」二二九二号文書ト同一文書ナルベシ〕

〔本文書ハ「家わけ六」桑幡文書五号文書ト同一文書ナルベシ〕

150 同前

讓与 嫡子太郎高元所

在薩摩國牛屎院惣領郡司職并永松・木崎兩名下地事

一永松名田島在家以下里々荒野并山野狩倉等事

一木崎名田島在家等事

副渡代々本證文并里々坪付事

右、件所者惠仏重代相傳之所領也、高元為嫡子之上、親  
子之志吳他之間、所讓与也、任先例可令領掌也、且郡内  
下地知行之輩、皆以惠仏庶子也、所領お他人讓券却事出  
來者可為惣領沙汰之由、先祖代々置文明白也、可令存知  
其旨也、次高元母并舍弟武元・元清・御房丸等仁指色目

可讓与之地有之、不可有違乱、仍為後代以自筆所書与也、  
將又讓与于高元之地、不可分与子孫、可讓于惣領一人也、  
仍為末代讓狀如件、

元弘二年十月十日

沙汰惠佛判

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一六一号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」桑幡文書六号文書ト同一文書ナルベシ)

151 同前

薩摩國牛屎院惣領職并永松・木崎両名田島在家山野狩倉  
以下郡司職事、惠佛多年重病間、讓与嫡子高元了、仍下  
賜將軍家御教書、誅伐凶徒以下、諸事當役勤仕之上者、  
可申賜安堵御下文候、<sup>(以)</sup>此旨可有御披露候、恐惶謹言、

建武四年六月十五日

沙弥惠仏判

進上 御奉行所

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一九四二号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」桑幡文書七号文書ト同一文書ナルベシ)

152 同前

注進狀并討死手負交名之狀、披見訖、度々軍忠神妙候、  
恩賞事、急可有沙汰之狀如件、

建武三年四月十一日

<sup>(足利直義)</sup>  
左馬頭御判

牛屎左近將監殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一八三三号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」桑幡文書八号文書ト同一文書ナルベシ)

153 同前

肝付八郎兼重以下凶徒等誅伐事

相催一族、不廻時剋馳向、可致軍忠之狀如件、

建武三年四月廿一日

<sup>(足利直義)</sup>  
左馬頭御判

牛屎左近將監殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一八三八号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」桑幡文書九号文書ト同一文書ナルベシ)

154 同前

度々合戦間、親類郎従、或討死、或被疵条、尤神妙也、  
於恩賞者追可有其沙汰、將又敦賀城凶徒誅伐事、嶋津孫

三郎相共馳向彼戰場、可抽軍忠之狀如件、

建武四年二月十二日

御判

(足利直義)

牛屎郡司左近將監殿

「裏縫判」(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一九〇〇号文書ト同一文書ナルベシ)

(本文書ハ「家わけ六」桑幡文書一〇号文書ト同一文書ナルベシ)

155 天平二年庚午正月十三日、宴于大宰帥大伴旅人卿宅、

烏梅能波奈、知利麻我比多流、乎加肥爾波、宇具比須

奈久母波流加多麻氣豆

大隅目履氏鉢麻呂

うめのはなちりまがひたるをかびにはうぐひすなくも

散乱也

はるかたまけて

和家夜度能、烏梅能之豆延爾、阿蘇毗都々、宇具比須

奈久毛、知良麻久乎之美

薩摩目高氏海人

わがやどのうめのしづえにあそひつゝうぐひすなくも

ちらまくをしみ

令義解云、凡役丁匠皆十人、外給一人充火頭也、謂火頭者斯之事、故曰火頭、即給功直、与見役者同也、又云、斯猶使也、左右衛門式云、凡

檢校左京非違者佐一人、尉一人、志一人、府生一人、

火長九人云云、萬葉ニ火長今奉部頭曾布、又火長  
大田部荒耳・火長物部真島此三人歌見于萬葉、天平勝  
宝七年乙未二月十六日下總国防人之申 (後欠)

(中表紙)

「桑幡氏系図牛屎氏」

156

大秦姓桑幡氏系圖季安愚考也、

秦俗称秦始皇五世孫融通王之後也、秦忌寸……同祖  
融通王之後也、高尾忌寸

○秦始皇帝

中葉闕略

世次無考

物智王

弓月王

○應神帝十四年、及弓月王來朝 日本、上表有請、

更歸故國、而率百二十七縣之諸狍族皈化本朝、多

獻金銀玉帛寶物等、 帝嘉之、乃賜地於朝津間腋

之上而令居焉、

眞徳王

秦忌寸、大秦公宿祢同祖功滿王之後也、秦人、秦忌寸同祖弓月王之後也、

普洞王

秦勝同祖

古記作浦東王

○仁徳帝賜普洞王姓波陀氏、因訓秦字亦曰波陀云、

當普洞王時、所率秦氏多被劫略離散諸州、蓋其徒遁居於大隅阿多間者尤多云、

雲師王

秦姓、秦始皇帝十三世孫、然能解公之後也、

武良王

秦ノ公酒

父普洞王時、諸秦氏多被劫略、十不存一、迨雄

略帝世、酒乃上請、求遣勅使悉招集之、帝聽其

願、遣小子部雷為勅使、往率大隅阿多隼人等、巡

招集之、乃得秦氏九十二部壹萬八千六百七人、

帝賜之酒、於是酒率其秦族、以養蠶織絹為產業焉

今隅州桑原郡、而所成絹盛饒詣、闕以貢進之、積如等蓋其遺址乎

山丘、帝嘉其功、特賜龍號曰禹都萬佐、因訓大

秦、亦曰、禹都萬佐、是則盈積有利益之義云、既

又詔建大藏於宮側納其貢物、置之官員所謂大藏、

自斯時始也、而秦氏本皆同祖、迨後各分、或異居

地、或異事業為數族、賜之宿禰忌寸等姓事見姓氏

錄、據是考之、薩摩州牛屎院可以大秦為姓、亦蓋

其裔族也、且其氏桑幡亦首乎養蠶、可併証也、

而本藩先史河野通古所著大概記云、牛屎氏・井手

籠氏・羽月氏・柿木原氏等為大秦姓、而其家所傳

大秦姓則秦徐福求不死藥來于日本為其後族云、今

季安拋姓氏錄以考之、則牛屎氏等之姓大秦、亦皆

物智王之徒族也、況特、

上世無見

大秦元平

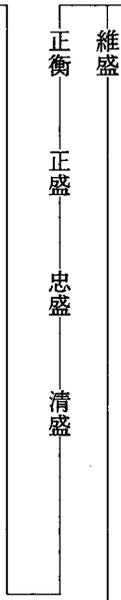
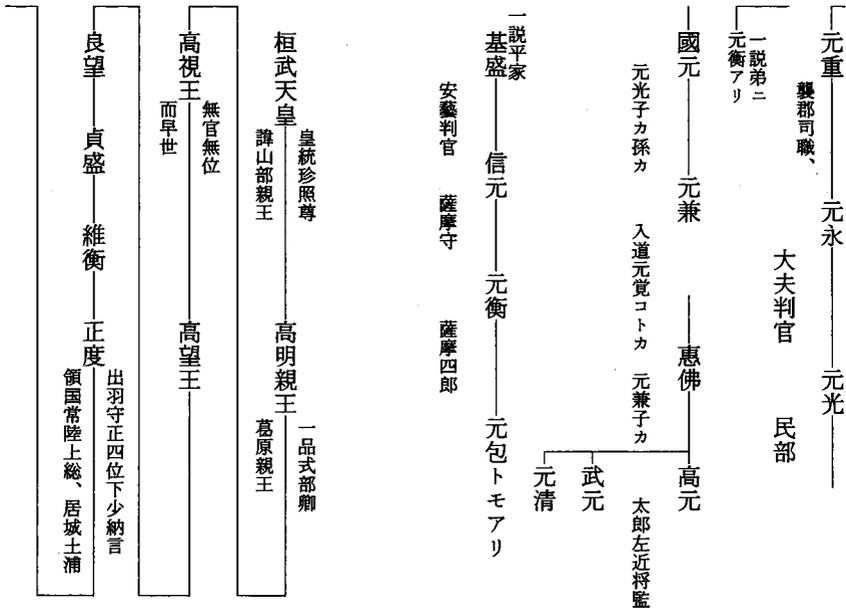
元包

康和二年庚辰堀河帝時、右近衛府 左衛門尉

牒命元平補為牛屎院郡司、以貢節 襲郡司職、

功也、

157



承安二年壬辰生、三歳之時爲大炊御門左大臣藤原經宗卿之猶子、壽永二年平家出都之時宗實止都、居住維宗卿、文治元年巳十二月經宗卿之書簡曰、

是故小松内府之末子前土佐守宗實者、自幼齡之當初為猶子、而依餘殃可有斷罪之由風聞、任欲申請是、

右自賴朝可存其旨之趣被報申之被聞之、文治五年酉二月、經宗被薨之後、相隨其遺言宗實於醍醐山遂出家、法名号重眞、自夫居住和笏南都、建久五年寅秋、自賴朝可有對面之由、使節參向奈良、依是重眞下向關東之時於相州足柄峯病死、于時二十有三歳也、

○宗衡 越前守 姓者藤原

知行貳拾町、  
母者源三位頼政之嫡子伊豆守仲綱之女子也、建久  
七年宗衡兄弟下向鎌倉、頼朝有對顔、思重盛舊恩  
給之故叮嚀親切也、因茲兄弟蒙頼朝之恩免、被預  
菱刈相印重妙、下向隅州菱刈、頼朝之御教書曰、

彼平宗實子孫雖為朝敵、就為源三位入道頼政之孫、  
申請罪於 法皇、露命隨被寬宥、仍而預下早、

建久七年二月四日 頼朝判

宇治相印殿

右小松之子孫羽月之里村構館居住、里村十町・平  
泉五町・下山野五町、依為隅州菱刈之郡内、為賄  
所如此令知行也、

盛衡 野邊越前守 有子孫居隅州、

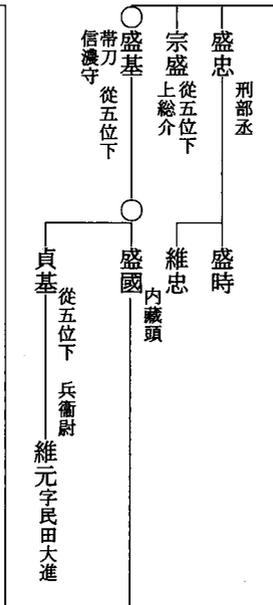
母全前、

蒙頼朝之貴免、為野邊遠江守小野盛遠聲養子、凡

小野姓野邊氏者武藏七黨之内ニ而横山黨也、

宗正 左衛門尉 号小松殿、亦謂羽月家、  
或宗政

成長之後、為大平太郎國元之養子、号大平左衛門  
尉元兼、亦大平元兼之次男牛屎越前守正菴、續小  
松家父宗正之後、



○信基 內藏佑 薩摩守 或陳元 住國常州

薩摩國伊佐郡牛山・羽月・山野・入山・平泉、曰  
於牛屎院、亦同郡之鶴田・佐志・山崎・宮之城・  
大村・黒木、謂之於祁答院、院則城号也、信元依  
保元之軍忠、拜領薩州伊佐郡、

基國 左衛門尉  
元康 右馬助

○元包

元衡為舍兄元包之猶子、知行伊佐郡、後改元衡、  
号元永、依是古系圖無元衡之實名、

元眞

元重

元衡

号大平薩摩四郎、

保元三年八月十三日、元衡始下向牛屎院、居住羽  
月多代之大平村、依是号大平、後元衡居住祢答院、  
依是世人曰其在所於大平村、非古來之在名、或亦  
号大平門、建久四年頼朝公富士野牧狩之射手組人  
數之中也、

○元永

初者元衡 大平薩摩四郎

壽永元年之比、就京都之兵乱、為院内警固、當家  
之一族赤田之一門、以牛山構城<sup>(郭)</sup>擲籠城之、仍而相

良家与菱刈家合兵而責落牛山城、依是院内為兩家  
之領所也、

○基光

領所薩州伊佐郡 居城樋脇清色

大平 依夢想改姓於大秦

文治三年未五月、元光如元安堵本領牛屎院、頼朝  
公之御教書曰、

(本文書ハ「諸家系図文書」一〇の一号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

元能大平後平二

鎌倉之公事奉行平五盛時、被遺鎮西之守護天野藤  
内遠景、其状曰、

(本文書ハ「諸家系図文書」一〇の2号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

大平太郎 在城薩摩樋脇城 号清敷、

157の3

157の2

○國元

嘉禎三年酉四月十九日、將軍家入御于左馬頭義氏朝臣家、御遊已後有引手物、

一御馬 畠山三郎 日記五郎

二御馬 新田太郎 大平太郎

○元兼 大平左衛門尉 法名元覺 寺者禰脇玉淵寺

實小松殿之子孫宗衡之息男宗正、為國元之養子、

号元兼、

建長二年戊正月二日、將軍家頼經公之御時、進獻

碗飯、

一御馬 畠山三郎國氏 大平太郎左衛門尉

同三年亥正月三日、碗飯、

一御馬 足利三郎家氏 大平左衛門尉

○元茂 或元義 法名元阿弥陀佛 墓在玉淵寺、

姓者太秦 居城郡答院禰脇城

家紋向鶴之事、多年曾有不持子、或夜其妻觀夢、

兩鶴飛來以食事看入妻女之口中、成懷妊誕生男子、

号其子於鶴太郎、以向鶴為其紋、其子成長之後子孫繁昌之故、自夫以向鶴為家之定紋云々、

正藤 牛屎越前守 姓藤原亦平姓 紋者向鶴

住所羽月之大嶋 正藤繼實父宗正之小松家、号牛屎、

重元 出雲守 忠重

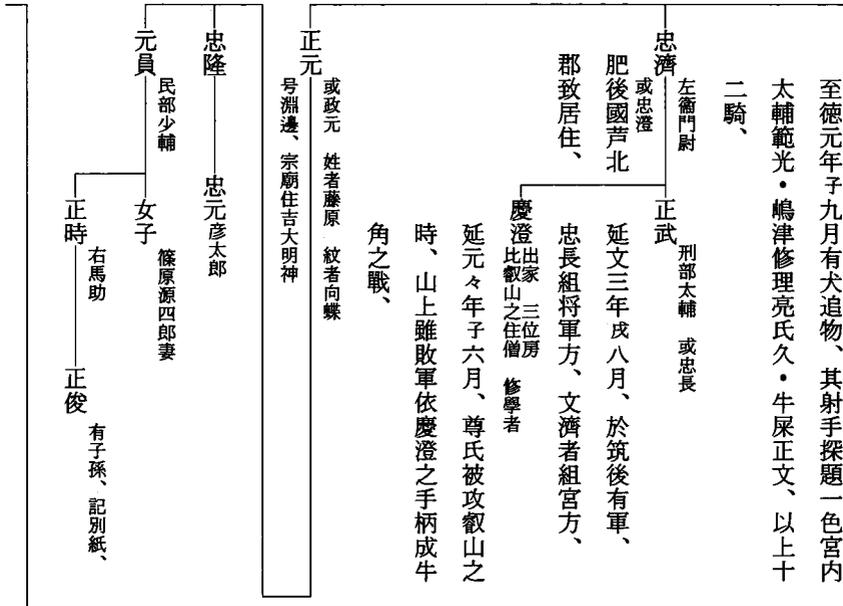
正忠

于爰羽月之大嶋村稻荷神社山中、宗衡・宗正一族之墓石九躰有之、曰之於小松殿之墓石、祈誓依叶參詣之男女無絶、或社人依致掃除墓石不能荒、

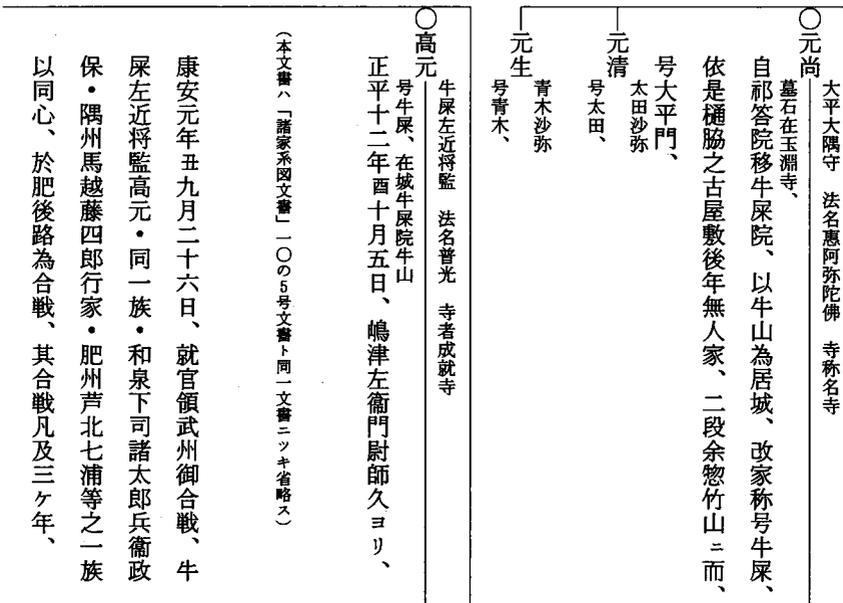
文濟 牛屎越前權守 法名旭鮮禪師

至德二年丁卯三月十六日辭世、羽月之大聖寺引導、其墓所在大嶋村稻荷神社山林、同所之旭鮮寺者文濟之菩提所也、

正文采女助



157の4



元豊 石見守  
号羽月、  
元實 采女佑  
元忠 豊後守

元住  
應仁元年相良家知行牛山、此時羽月家・山野家  
隨身相良家、

元詮 左衛門尉  
号山野、  
元長 民部少輔  
頼元 因幡守  
入山  
篠原

○元息 牛屎河内守 法名祖英上座 寺成就寺

永和三年丁巳十月二十八日、為將軍家之御一味同心一揆契約之人數四十一人、其内當家之一門七人、  
牛屎高元・羽月元豊・山野元詮・牛屎元息・太田元清・青木元生・鳥越義元、

義元 準人佐  
元信 彦九郎  
元遠 兵部少輔  
元眞 出雲守

157の6

○元秀 牛屎近江守 法名省忠  
(本文書ハ「諸家系図文書」一〇の7号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

157の5

○元勝 彦太郎 法名聖元 寺成就寺

元嗣 平次郎  
(本文書ハ「諸家系図文書」一〇の6号文書ト同一文書ニツキ省略ス)

元繼 弥五郎  
準人佐  
元當 出雲守  
元保 出雲守  
元通 出雲守  
元壽 平六兵衛  
元續 有子孫、中郷土  
井手籠  
屋代  
柿木原

○久元 越前守 法名光久上座 在城牛山  
久元室 妙雲禪定門 寺成就寺

永享十年秋、福昌寺佛殿造營之勸進有之、馬壹足  
以代錢各奉加之、沙弥存忠、(島津久豊)藤原貴久・牛屎越前  
守久元・羽月豊後守元忠・山野因幡守頼元・北原  
周防守久兼、其外八十七人有之、

女子 日州真幸院司北原長門守貴兼室  
文明十七年巳六月二十一日、貴兼於日州飢肥戰死、

右女子嫁于貴兼而誕生女子、其女子十四五歲之比、  
依縁組違返之遺恨、自大福院城著甲冑持兵具、為  
号踊入金丸城、而伐崩城中欲奪執女子、女子驚是  
自城上飛城下、入池中而溺死、仍依有其靈風建其  
神社於池中、當家依母方之由緒、自夫代々祭當家  
之氏神、池王大明神是也、後年依新田神社在山林、

○歡元 越後守 法名光秀禪定門  
日州飯野居住、

牛屎家之系圖一通

文正二年丁亥梅雨吉日 牛屎大秦歡元書之、

元親 右衛門尉 法名梅岳源春 元幸 隠岐守 無子孫、

女子 淵邊權之允盛元室 盛元之孫淵邊主計續元幸之後、号牛屎隱  
岐守元知、

○重元 牛屎權守 法名龍水禪定門  
居住飯野、寺長善寺

鷹書一卷

永正六年巳卯月吉日 重元

凡眞幸以後之知行六町三段余、高ニシテ百六十石  
程、應仁元年重元之一族自牛屎院移眞幸院、  
凡自保元三年至應仁元年十四代、薩州伊佐郡領知  
之年間三百十余ヶ年、其高凡三万七千二十石余、  
後年以文祿檢地之高頭如此、但外ニ高四千余石、  
菱刈郡相除之、

○實元 牛屎平次郎 入道而号常慶、姓者藤原  
知行六町三段

明應三年甲寅於眞幸生、母淵邊但馬守元慶之女子也、當家者代、雖為牛屎名字、其家依不繁昌改母方之名字、号淵邊、依是姓平姓又藤原、

覺

大平家覺書系圖一通

天文十二年三月二十七日 牛屎平次郎實元

永祿五年、眞幸院司北原兼隆早世之後、(島津義弘)忠平公移

眞幸給之、故當家之一族奉仕忠平公、元龜三年秋、

常慶召列一門自眞幸移栗野、天正十年三月十二日、

實元遠行、年八十九歲、葬德元寺、

○盛元

牛屎權之丞 後号淵邊權之允、

知行三町七段下、

元次

母者牛屎隱岐守元幸之女子也、

知行三町七反下、居住栗野、

元知

淵邊主計介 後牛屎隱岐守

慶長・元和給人高兩度上地之時、元知持高亦諸人次三ヶ二之上地、或又知行十二三石、依沽却寬永之比相殘高十九石有之、自祖父盛元持續以系圖文書、繼嫡家隱岐守元幸之後、改淵邊号牛屎隱岐守、

女子 加藤金右工門婦 同喜兵工母、

右女子嫁加藤家之時、持參系圖文書、依是文書等在加藤家、其内頼朝公之御教書依御公用被指

上是、

元嗣 牛屎勝兵工 無子孫、 女子

元次 主膳 無子孫、

女子 隅州曾木住人榎田隱岐政元妻

○元繼

牛屎彌兵衛 後号淵邊彌兵衛、

法名一庵道慶禪定門 居住飯野、

永正十五年戊寅於眞幸生、于爰肥後國之聖山伏排 廻眞幸院、是者求麻之相良家窺眞幸檢見之由風聞、依是弥兵衛於路次討之、其山伏為崇、(崇力)依是祭之於

氏神、正宮聖宮是也、飯野之域内有荒神宮、又麓有荒神宮、兩社共其祭同日也、當家祭此兩社於氏神、亦正氏神者八幡宮也、元龜三年申五月四日、於眞幸忠平公与伊東家御軍之時、弥兵工五十四歳而戰死、其戰場木崎原云々、慶長十七年子三月十七日、弥兵工婦於加治木卒、年八十二歳

元續 与早左衛門  
知行三反下  
号淵邊

元信在子孫、記別紙、

女子自若年時奉仕忠平公御奥、其後忠恒公之御母公御上洛之時被召附、於伏見病死、其刻弟重綱在京之故、寺方之首尾相調之、

元秋 淵邊平五郎 平内左工門 法名祖榮昌範禪定門

知行貳町二反用  
天文二十三年甲寅於隅州栗野生、母者井手石氏之女子也、元龜三年父弥兵工戰死之後、自飯野移栗野、  
日州栗野住人蒙御勘氣、依是栗野住人与元秋蒙討

手命、待請通路元秋依為初手口早起合討之、其時蒙深手、

天正六年寅冬、於日州高城大友軍之時、元秋討敵、自其敵以鎗被切左耳、依是元秋耳半分落掛有之、同十二年、自義弘公就被移自栗野亦移飯野、同十五年亥三月十五日、元秋致義弘公之御供、於豊後戰死、年三拾四歳也、凡其時戰死之衆二十余人、其戰場則清田郷云々、

重綱井手石五郎兵衛 法名月江淨西上座

永録元年戊午於栗野生、自幼稚時為井手石氏養子、自莊年比勤栗野地頭川上參河守忠智之與力役、天正十一年未六月十三日肥前深江城責之時、重綱隨川上左京忠堅責入城中、各蒙疵引退、

同十二年申三月二十四日、於肥前嶋原、河上忠堅以鎗突伏肥前大将隆信公欲執頸之刻、築瀬兵右工門与重綱馳寄其場、相鬪討捕隆信公、其時忠堅有室、隆信之頸重綱備實檢、

同十四年戌六月筑州岩屋城責之時、城主大将筑紫

廣門之舍弟春門、自城中打出、武勇之勳見有之、川上忠堅相進而被掛之時、井手石重綱先討捕敵一人、見忠堅則春門以鎗突伏左京亮之故、急馳寄雖捕春門、忠堅之鎗疵依深手終忠堅絕其命、年二十九歲、与重綱同年也、

文錄元年重綱雖渡朝鮮國於彼地蒙深手之故、手足

不自由、御先歸朝、

慶長元年自栗野移隅州帖佐、同六年之比自惟新公被仰代官職承、御知行方為其役分地高拾五石拜領帖佐餅田村、同十二年就惟新公之御移、自帖佐移同所平松村、同十四年移加治木、元和五年末七月惟新公御逝去之後、役分高被召揚、加治木之居住難成之故、寬永九年申十月移麿嶋、居住淵邊元眞之屋敷、同十八年巳四月二十四日遠行、年八十四歲、葬柿本寺、

元次

善右工門

寬永三年於加治木卒去、

兒玉弥兵工婦

「女子

元眞

宮千代

平内左工門

良右工門

法名善林宗樹居士

天正十一年癸未十一月十八日於栗野生、母同所住人竹下弥二郎女子、同大覺左工門同姓弥二郎之姉也、

文錄四年、元眞十三歲、依父祖兩代戰死跡之子孫

被加御憐愍、自義弘公被召出、被召仕奧小姓、

慶長元年就御移元眞自栗野移帖佐、同二年酉二月

致惟新公御供元眞十五歲而渡朝鮮國、於彼地奉懸

忠恒公之御目入御勝手、自夫被召仕忠恒公御方御

小姓役、依是賜和州手搔包清之脇差、且又每度拜

領御衣裳御肩衣袴着用之、

日外於朝鮮國、忠恒公野外出御之時、依仰元眞於

御前討科人、若年ニ而其場首尾能奉入御感、宇多

國宗之御腰物拜領之、同三年戌十二月御歸朝、直

ニ如伏見被召列、翌年之春歸國、亦同年夏就庄内

軍致忠恒公之御供、於彼地敵之鉄炮當元眞之股、

少シ引腰之故、公界之奉公難成、十九歳之時、蒙  
尊免取前髪、同十二年未正月就惟新公御移自帖佐  
之麓移同所之平松村、同十四年移加治木、寛永六  
年之春在江戸之留主、妻子等移麿嶋、其翌年被下  
屋敷居住平馬場、

寛永元年(文力)九月二十九日遠行、年七十九

袈裟太郎

慶長六年辛丑於帖佐生、母者大迫出雲助女子、同  
十一年午五月六歳早世

○元辰 法弟 仲兵衛

慶長十三年戊申正月廿八日於平松生、

元和九年、於加治木御城召出家久公之御前、被

下名而号仲兵衛、

貞享四年卯十月六日卒、年八十歳、葬柿本寺、

元隆有子孫、

元鋪 仲兵衛 弥兵卫

寛永十四年十一月二十八日於鹿兒嶋生、母者加治  
木住人花堂与七郎重俊女子也、

女子 八木次郎左工門信由婦

女子 佐々木勘右工門綱則婦

女子

女子 竹内覺右工門實喜婦

元詮 仲三郎 良右工門

女子 仲介 茂兵衛 源右工門 佐五右工門

元甫 有子孫、

仲之允 三歳而早世

女子 久二郎 九歳卒、

元長

女子 虎千代 良右工門

元雅 正徳四年甲午八月十一日生、

○元能 仲七郎 久右工門 剃髮号作玄、

(保也)  
正徳四年丁亥二月十一日生、母者兄同、  
(十五也)  
享保五年正月廿三日卒、

女子

仲次郎 久右工門 剃髮号玄意、

○元祇

貞享元年甲子九月廿六日生、

仲八

元儀

為南郷吉右工門俊常之御養子、

女子

篠原善兵工室  
鶴松

元次

仲次郎 二歳早世

女子

壹岐源助室

元彬

安之丞 仲之丞

享保十三年申九月七日生、

○元長

安之丞

○元通

直右工門

(本系図ノ人名上ノ「○」印並ニ野線ハ朱書ナリ)

文  
書  
目  
録

## 例言

- 一 本巻に収めた「諸家系図」全五巻、「諸家系図文書」巻一から巻四までの文書を、それぞれ掲載順に通し番号を付して収録した。
- 一 文書は番号のほか、年月日、文書名を記載した。
- 一 文書の年月日については、原文書記載の年紀はそのままとし、異筆・補筆の年紀は「ハ」で囲んだ。また異筆・補筆において疑義の示されているものは「レ」で囲んで区別した。
- 一 年紀を欠くもののうち、推定しうるものは「（ ）」で示した。
- 一 月の異称は数字に改めたが、正月、朔日、晦日などはそのまま残した。
- 一 原則として『鹿児島県史料 旧記雑録』及び『同 旧記雑録拾遺家わけ』にならい文書名を付けた。
- 一 重複等により省略した文書には※印を付し収録した。

番号	年	月	日	文書名
諸家系図				
「諸家系図 一」				
一の1			十一月十三日	本田氏関係書上 大田久知書狀
二				本田氏正統系図
三				本田久兼流系図
四				本田重恒流系図
五				本田市郎左衛門家略系図
六				本田親貞流系図
七				本田親賢流系図
八				本田古藤流系図
九				藤原姓鎌田政詮家略系図
九の1				鎌田政真和歌
一〇				鎌田政香家略系図
一一				宮之原通直家略系図
一二				惟宗姓市来政方家略系図
一三				二階堂維遠流系図
一四				藤原姓二階堂氏正統系譜
1				東鑑
2				田布施金藏院日記
一五				二階堂行重流系図
一六				二階堂氏系譜抄
「諸家系図 二」				
一七				源姓松崎氏系図
番号 <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>文書名</th>	年	月	日	文書名
1	(天保 五年)	七月	廿四日	伊地知季安覚書
2	文祿 五年	三月	十七日	伊集院幸侃 <sup>忠棟</sup> 領知目録
3	文祿 五年	十二月	二日	伊集院幸侃 <sup>忠棟</sup> 署判領知目録
4	元和 六年	二月	廿七日	国分衆中高帳抄
5	元和 六年			鹿兒府衆中高帳抄
6	寛永 九年			寛永九年高帳抄
7	寛永 十三年	九月		鹿兒島衆中屋敷檢地帳抄
8	万治 二年			鹿兒島衆中万治高帳抄
9				矢上氏系図抄
一八				藤原姓長谷場氏系図
一九				藤原姓平岡氏系図
二〇				後奈良天皇口宣案
二〇の1				伴姓萩原家来曆
二一				伴姓肝付氏庶流系図
二一の1	天明 七年	正月	吉祥日	源盛富跋書
二二の1				肝付兼清流系図
2				神名書上
3				神名書上
4				神名書上
二三の1				赤占氏略系図
2				赤占氏法名書上
2四				床波氏系図
二五				伊地知季昭家系図
二五の1	元文 四年	三月	廿四日	伊地知将興証文
二六				平姓薩摩氏吉富系図

「諸家系圖 三」

二七	稅所氏系圖	四九	黑田氏系圖
二八	島津龍伯久証狀	五〇	橘姓東山藤崎系圖
二九	島津龍伯久書狀	五一	有馬次右衛門系圖
三〇	久保氏見聞秘記	五二	肥後庄右衛門系圖
三一	田代氏系圖	五三	村田氏系圖
三二	梶原左近尉系圖	五四	三原氏系圖
三三	梶原景久流系圖	五五	鮫島宗家流系圖
三四	梶原孝純流系圖	五六	高城氏系圖
三五	海江田氏系圖	五七	田部姓土持氏系圖
三六	讚良重員流系圖	五八	伊東作太夫家系圖
三七	相良氏系圖	五九	伊東權角家系圖
三八	永山休兵衛家系圖	六〇	伊東才藏家系圖
三九	仁礼覺左衛門家系圖	六一	淨榮院系圖
四〇	江田源助家系圖	六二	大前氏東郷斧湧氏系圖
四一	国分氏系圖	六三	藤原姓菊地氏系圖
四二	入田氏系圖	六四	藤原姓相良氏系圖
四三	菱刈氏略系圖	六五	大河平家系圖
1	三原重秋外二名連署書狀	六六	古加治木家系圖
2	菱刈一族並他門交名注文	六七	莫根氏系圖
四四	野村氏系圖	六八	高木氏系圖
四五	日奉姓小川氏系圖	六九	紀姓宮里氏系圖
四六	肥後氏系圖	七〇	祢寝山城坊女子系圖
四七	那須五左衛門家系圖	七一	伊東清左衛門流系圖
四八	餅原氏系圖	七二	祢寝元就流系圖
		七三	古佐多系圖
		七四	有川與左衛門流系圖

七五	西俣代々系図	九七	延徳 二年	三月 廿日	犬追物手組
七六の1	源家西俣氏系図	九八	延徳 四年	十一月十三日	島津忠昌書狀
2	宝永 三年	九九	文龜 四年	三月廿二日	犬追物手組
	西俣数馬届書	一〇〇			諸家大概記
		一〇一			某覚書
「諸家系図 四」		一〇二			上原氏系譜抄
七七	二階堂氏系図	一〇三			上原氏法名書上
七八	郡司藤原・地頭代源連署下文	一〇四			上原氏日記抄
七九	延慶 二年	一〇五			上原尚清流系図
	八月 廿日	一〇六			上原康基流系図
	六月廿九日	一〇七			上原氏系譜
八〇	嘉曆 三年	1	天正 八年	閏三月 吉日	島津氏老臣連署坪付
	十二月廿七日	2	天正 廿年	六月 吉日	島津忠長外四名連署坪付
八一	元徳 三年	3	天正 廿年	十二月廿八日	町田久倍外二名連署知行目録
	十月十九日	4	天正 廿年	十二月廿九日	長寿院 <small>阿多外四名連署狀断簡</small>
八二	元徳 三年	5		六月十一日	長寿院 <small>慶長</small> 書狀
	十月十九日	6	文祿 五年	十二月二日	伊集院幸侃 <small>棟忠</small> 知行目録
八三	建武 三年	7		十二月廿二日	伊集院幸侃 <small>棟忠</small> 書狀
	四月十二日	8			上原氏由緒書
八四	建武 三年	9	〔慶長 四年〕	二月廿四日	島津忠恒書狀
	四月廿七日	10	〔慶長 四年〕	四月十四日	上原尚張書狀
八五	建武 三年	11	慶長 六年	二月 三日	島津忠長外三名連署加増目録
	四月廿八日	12	慶長 六年	十二月十三日	兵具所達書
八六	建武 三年	13		正月 吉日	御持具足之事
	三月廿五日	14		四月 七日	昌州書狀
八七の1	島津義弘書狀	15		十一月廿六日	上原尚演書狀
2	伊地知季安考				
八八	建武 三年				
	六月 日				
八九	建武 三年				
	九月 廿日				
九〇	建武 四年				
	四月 日				
九一	觀応 二年				
	十一月廿九日				
九二	室町幕府事書				
九三	応永 九年				
	七月廿五日				
九四	応永廿一年				
	八月十九日				
九五	永享 四年				
	五月十三日				
九六	永享十二年				
	十一月廿五日				

16 五月十五日  
 17 三月廿七日  
 18 八月十五日

一〇八 上原休兵衛口上覚  
 一〇九 上原休兵衛覚書  
 一〇 伊地知季安書狀  
 一〇 上原丹後守流系図  
 一〇 都城臣上原基左衛門系図  
 一一〇 横川士上原氏系図  
 一一一 上原氏軍功書上  
 一一二 源姓松本氏系図  
 一一三 三原氏系図  
 一一四 三原藤次流系図  
 一一五 富山系図  
 一一六 野辺盛仁一流系図  
 一一七 平氏野辺家系図抄

「諸家系図 五」

1 〔承久三年〕 七月 廿日  
 2 東鑑  
 3 (文治 五年) 十一月廿四日  
 4 建仁 三年 十二月 九日  
 5 北条時政下文  
 6 薩摩國岡田帳抄  
 7 北条時政下文  
 8 閏九月 八日  
 9 貞永 元年 十月廿六日  
 10 閏九月 八日  
 11 關東御教書  
 12 薩摩國分寺由緒  
 13 島津忠宗警固番役覆勘狀  
 14 永仁 二年 七月 卅日

※

10 永仁 三年 四月十六日 島津忠宗警固番役覆勘狀  
 11 永仁 五年 六月 日 左衛門尉朝員奉書  
 12 (元弘 三年) 六月 四日 後醍醐天皇諭旨  
 13 元弘 三年 七月 三日 後醍醐天皇諭旨  
 14 曆心 二年 十一月廿一日 光明院口宣  
 15 曆心 四年 六月廿三日 島津宗久請文  
 16 建武 三年 三月廿八日 足利尊氏御教書  
 17 建武 三年 四月廿八日 執印友雄着到狀  
 18 建武 四年 二月十二日 足利直義軍勢催促狀  
 19 觀應 二年 八月廿八日 尾張義冬書下  
 20 觀應 三年 六月 五日 足利義詮軍勢催促狀  
 21 文和 二年 三月 十日 足利義詮御教書  
 22 文和 二年 四月廿六日 一色直氏軍勢催促狀  
 23 文和 三年 七月 十日 一色範氏感狀  
 24 文和 三年 八月廿九日 一色直氏感狀  
 25 文和 三年 九月 三日 足利尊氏御教書  
 26 文和 四年 三月 三日 島津師久書下  
 27 文和 五年 六月十七日 島津師久書狀  
 28 文和 五年 二月廿二日 島津貞久書狀  
 29 九月廿七日 島津師久書狀  
 30 七月十六日 島津氏久安堵狀  
 31 貞治 七年 二月 三日 島津氏久契狀  
 32 貞治 七年 三月廿七日 島津師久預ヶ狀  
 33 (応安 元年) 四月 二日 島津氏久書狀  
 34 応永 十年 十月 九日 島津元久宛行狀  
 35 応永 廿八年 八月廿三日 島津存忠久宛行狀



一三三の1 寛元 四年 十月廿九日 関東御教書  
 2 元亨 三年 十月三日 関東御教書裏書  
 一三四 寛元 元年 九月十三日 平忠茂讓狀  
 一三五 弘安 五年 十二月二日 平忠重讓狀  
 一三六の1 平忠永讓狀  
 2 元亨 三年 十月六日 平忠永讓狀裏書  
 一三七 元応 元年 十一月一日 平忠兼寄進狀  
 一三八の1 元応 元年 十一月一日 平忠兼亮券  
 2 元亨 三年 十月三日 平忠兼亮券裏書  
 一三九 元亨 四年 八月十日 鎮西下知狀  
 一四〇 元応 二年 四月十一日 国分友貞宛行狀  
 一四一 天授 二年 三月二日 めうもん書下  
 一四二 応安 七年 十二月五日 惟宗久成讓狀  
 一四三 応安 七年 十二月五日 惟宗久成避狀  
 一四四 正長 二年 十一月十五日 惟宗宗友讓狀  
 一四五 建武 二年 二月卅日 内裏大番役交名注文  
 一四六 永和 元年 七月 日 国分久成軍忠狀  
 一四七 応永 七年 六月九日 禪室避狀  
 一四八 応永 八年 三月七日 禪祐讓狀  
 一四九 応永廿八年 五月三日 沙弥通松讓狀  
 一五〇 応永十九年 三月廿四日 島津久豊宛行狀  
 一五一 応永廿八年 八月九日 島津存忠豊久宛行狀  
 一五二 応永廿八年 八月十三日 島津存忠豊久安堵狀  
 一五三 正長 二年 十一月十五日 惟宗宗友讓狀  
 一五四 宝徳 二年 八月十日 島津忠国安堵狀  
 一五五 建徳 二年 七月 日 沙弥禅恵讓狀

一五六 建徳 三年 八月廿八日 禅恵讓狀  
 一五七 建徳 三年 八月廿八日 禅恵讓狀  
 一五八 康永 四年 七月五日 惟宗友重讓狀  
 一五九 永仁 三年 二月十日 羽島地頭檢地目録  
 一六〇 永仁 二年 十二月廿三日 檢注取帳抄  
 一六一 文祿 五年 十一月二日 伊集院幸侃棟署判領知目録  
 一六二 慶長 六年 十二月三日 村田雅榮助署判加増目録  
 一六三〔天和三年〕 正月十一日 羽島太郎左衛門覚書  
 一六四 末吉衆中根元記抄  
 一六五 惟宗姓五代勝左衛門系図  
 一六六 惟宗姓大寺氏系図  
 一六七 橘姓柏原氏系図  
 一六八 澤村氏系図  
 一六九 薩摩国市来院本主系図  
 一七〇 寛元 二年 八月十八日 将軍袖判下文  
 一七一 正和 三年 八月五日 鎮西御教書  
 一七二 文保 元年 八月廿日 鎮西御教書  
 一七三 文保 三年 正月廿三日 鎮西奉行人奉書  
 一七四 元亨 四年 十月廿日 河上家久着到狀  
 一七五 嘉曆 四年 七月 日 大藏氏代道円重申狀  
 一七六 元徳 三年 十月十九日 河上導乘着到狀  
 一七七 曆応 二年 十月廿九日 一色道猷範軍勢催促狀  
 一七八 曆応 二年 十一月七日 少式頼尚軍勢催促狀  
 一七九 延元 二年 三月十七日 河上導乘着到狀  
 一八〇 延元 二年 六月四日 三条泰季御教書  
 一八一 貞和 六年 二月十八日 足利直冬書下

19	興國四年	十月廿二日	某書下	1	文治三年	五月三日	源賴朝下文
18	建武元年	七月十七日	島津貞久施行狀	一〇			大平家之旧記
17	建武元年	六月廿六日	觀忍奉書	九			秩父重豊二男一流系図
16	(文祿元年)	六月九日	近衛竜山前書狀	八			秩父重豊四男系図
15		正月廿四日	進藤久治書狀	七			伊地知家庶流書上
14		四月十一日	町田久政書狀	六			秩父將恒譜
13		正月晦日	町田久倍書狀	五			伊地知久安 <small>季</small> 置文
12		五月十八日	本田親貞書狀	五の1			平秩秩父氏略系図
11		二月廿六日	町田久倍書狀	四の1			親王花押写
10		十一月六日	町田久倍書狀	四			後醍醐天皇及皇后靈牌・良懷
9		七月廿九日	薩州小狩行事達書	三			藤原姓志岐氏略系図
8			蒲池貞留譜	二			中山王世譜序
7	元祿十五年	正月吉祥日	蒲池家由緒	一			中山王世譜序
6	寛保元年	八月十六日	蒲池貞利覚書				諸家系図文書 一
5	寛保元年	八月十六日	蒲池貞利覚書				諸家系図文書
4		十一月十五日	蒲池八左衛門申出書				蒲池氏系譜抄
3			某覚書				蒲池氏系譜覚書
2			蒲池仲右衛門申出書	一九一			蒲池四郎左衛門家系図覚書
1			蒲池五郎左衛門家系図	一九〇			喜入久政・川上久晴連署名寄目録
一八八			導証書狀	一九			町田存松 <small>久</small> 領知目録
※一八七	弘安五年	三月十一日	橋口家忠申狀	24	元和六年	五月十三日	伊集院幸侃 <small>忠</small> 署判領知目録
※一八六		七月廿五日	蒲池四郎左衛門家系図文書写	23	文祿五年	十二月二日	直久安堵狀
※一八五		五月九日	大寺幸朝・川上忠塞連署起請文	22	文祿三年	二月十三日	蒲池久家打渡狀
※一八四	寛正二年	十一月廿四日	島津立久安堵狀	21	文祿三年	十月廿三日	直久安堵狀
※一八三	貞治六年	六月廿七日	島津氏久・基久連署安堵狀	20	応永五年	六月廿日	蒲池久家打渡狀
※一八二	貞和七年	六月五日	足利直冬感狀		應永九年	六月廿日	蒲池久家打渡狀

※※※※※

8	7	6	5	4	3	2	1	四	7	6	5	4	3	2	1	三	二	一	8	7	6	5	4	3	2
建武三年	建武三年	(元弘)三年	文和三年	正応六年	文永九年	文暦二年	文暦二年	万治二年	万治二年	二月晦日	四月十日	五月五日	五月三日	五月三日	五月三日	五月三日	五月三日	五月三日	建久四年	天和三年	正平十二年	正平十二年	天和二年	天和二年	(文治三年)
四月廿五日	三月五日	十月十三日	七月十三日	五月廿四日	十一月十二日	八月廿八日	七月廿七日	八月十八日	八月十七日	二月晦日	四月十日	十月五日	五月三日	五月三日	五月三日	五月三日	五月三日	五月廿九日	十二月日	二月卅日	四月十日	十月五日	六月十四日	五月三日	
指宿成榮着到状	足利尊氏軍勢催促状	島津貞久書下	指宿成榮着到状	平忠連讓状	平忠成讓状	関東下知状	北条泰時書状	平姓指宿氏系図	平田清右衛門書状	高崎宗右衛門書状	島津忠国書状	島津元久書状	島津師久書状	源頼朝御教書	源頼朝下文	源頼朝下文	源頼朝下文	富士野御狩拔書	元鋪奥書	島津忠国書状	島津元久書状	島津師久書状	某寛書	弁官親盈副書	源頼朝御教書

「諸家系図文書 二」

4	3	2	1	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
明暦三年	寛永十二年	寛永六年	元禄十三年																						
正月十五日	十二月十五日	八月十五日																							
島津久通・鎌田政昭運署証状	島津久慶外二名運署曳付	島津久元・喜入忠政運署曳付	平田純音序	藤原姓平田氏純貞系図	諏訪大明神御祭会勅役書上	平姓庶流平田氏系図	平田狩野之助先祖之次第	帖佐良西流系図	日新様以来御奉公之次第	帖佐太郎系図	御当家御代々御犬追物平田家手組之事	平姓平田氏系図													



五八	弘長 二年	八月 日	島津庄預所下文	八四〔寛永十八年〕	八月廿七日	川上久國書狀
五九	文永 七年	八月 日	島津庄預所下文	八五 慶長十七年	六月十六日	島津忠仍 <small>久</small> ・菊袈裟 <small>敏</small> 久連署 起請文前書
六〇	文永 九年	八月 日	島津庄預所下文	八六		某起請文前書
六一	弘安 四年	八月 日	島津庄預所下文	八七 慶長 七年	八月 十日	島津惟新 <small>弘義</small> 起請文前書
六二			鹿屋氏系図	八八〔天正十五年〕	五月 七日	島津義珍 <small>弘義</small> 書狀
六三			伴姓鹿屋氏系図	八九 文治 五年	十月 三日	源頼朝御教書
六四 元禄 五年		九月廿三日	伊地知重英書狀	九〇 文治 三年	九月 九日	源頼朝下文
六五〔寛永十五年〕		正月 九日	川上久國書狀	九一の1〔慶長 四年〕	四月 朔日	豊臣氏五大老連署書狀
六六〔寛永十五年〕		正月 九日	川上久國書狀	九一の2〔慶長 四年〕	五月十一日	記事
六七〔寛永十五年〕		正月十八日	川上久國書狀	九二の1		種子島清時譜
六八〔寛永十五年〕		正月十八日	伊集院忠真書狀	九三 2 天正 八年	十月 五日	島津義久証狀
六九 慶長 四年		六月十八日	島津惟新 <small>弘義</small> 書狀	九四〔応永 四年〕		波谷氏鹿兒島參仕座配書立
七〇 慶長 四年		七月十三日	島津惟新 <small>弘義</small> 書狀	九五 延文 元年	十二月 三日	參津時条々々
七一 慶長 四年		八月 六日	島津惟新 <small>弘義</small> 書狀草案	九六 延文 二年	正月廿八日	足利尊氏拳狀
七二 慶長 四年		八月 六日	島津義弘書狀	九七 延文 二年	正月廿八日	藏人頭日野時光奉口宣案
七三		十月廿六日	島津惟新 <small>弘義</small> 書狀	九八 明德 四年	六月十一日	藏人頭日野時光奉口宣案
七四 慶長 四年		十一月 六日	伊集院忠真書狀	九九		島津元久書狀
七五 慶長 四年			島津義弘 <small>寛書</small>	一〇〇		本田貞親書狀
七六 慶長 四年			島津義弘 <small>寛書</small>	一〇一		伴姓肝付氏正統系図
七七〔慶長 四年〕		八月 十日	島津龍伯 <small>義書</small> 狀	一〇二		伴家系図
七八〔慶長 三年〕		十一月 六日	島津龍伯 <small>義書</small> 狀	一〇三		前田茂右衛門家系図
七九〔寛永十九年〕		十月十七日	島津久通外二名連署書狀抄	一〇四		前田宇兵衛家系図
八〇〔寛永十九年〕		七月十九日	島津久通外二名連署書狀抄	一〇五		前田軍八家系図
八一		七月十二日	島津家久書狀	一〇六		前田七郎右衛門家系図
八二 寛永十三年		三月十四日	土井利勝外三名連署書狀			前田諸左衛門家系図
八三〔寛永十三年〕		六月十五日	伊勢貞昌・川上久國連署書狀			

「諸家系圖文書 四」

一〇七	紀姓宮里氏系圖	一三一	文和	四年	二月廿九日	家重・家高讓狀
一〇八	比志島源左衛門家略系圖	一三二	嘉元	三年	五月十六日	しやうしん宛行狀
※一〇九	藤原姓志岐氏略系圖	一三三	延応	元年	十一月九日	沙弥行念讓狀
一一〇	平姓福崎氏系圖	一三四	文保	二年	十一月二日	鎮西下知狀案
一一一	種子島時述家系圖	一三五	延文	元年	十月九日	島津道鑑 <small>眞</small> 書下
一一二	國上氏系圖	一三六	延文	二年	五月十九日	一色直氏宛行狀
一一三	種子島善左衛門家系圖	一三七	明德	五年	四月九日	伊予守某書下
一一四	平姓加世田氏系圖	一三八	応永	十五年	正月十一日	沙弥性慶讓狀
一一五	桂彦太夫家系圖	一三九	文安	六年	二月九日	平家教讓狀
一一六	平姓祢寝氏略系圖	一四〇	文安	六年	二月九日	某讓狀案
一一七	庶流伴姓肝付氏系圖	一四一	正平	元年	三月廿八日	平家高讓狀
一一八	源姓畠山氏略系圖	一四二	貞和	六年	四月廿九日	孫二郎証狀
一一九	藤原姓鎌田氏將永流系圖	一四三	正平	五年	四月廿五日	征西將軍宮令旨
1100	藤原姓鎌田氏政年流系圖	一四四	正平	六年	十一月廿七日	征西將軍宮令旨
2	秩父將恒譜	一四五	延文	元年	七月十日	足利尊氏御教書
※一一一	本田氏關係書上	一四六	文治	三年	五月三日	源頼朝下文
※一一二	家貞証狀	一四七	文治	三年	十二月廿七日	関東下知狀
一一三	道性所領注文	一四八	文永	二年	十月十一日	関東下知狀
一一四	平秀忠讓狀	一四九	元亨	元年	十月十日	沙弥惠仏讓狀
一一五	妙義讓狀	一五〇	元弘	二年	十月十日	沙弥惠仏申狀
一一六	秀貞讓狀	一五一	建武	四年	六月十五日	足利直義感狀
一一七	秀貞讓狀	一五二	建武	三年	四月十一日	足利直義感狀
一一八	道惠讓狀	一五三	建武	三年	四月廿一日	足利直義軍勢催促狀
一二九	山門院地頭兼惣郡司代盛秋和与狀	一五四	建武	四年	二月十二日	足利直義軍勢催促狀
一三〇	徳治二年七月廿七日	一五五	建武	四年	二月十二日	伊地知季安記事
		一五六	建武	四年	二月十二日	大妻姓桑幡氏系圖

※ 1	建久 七年	二月 四日	源頼朝御教書
※ 2	文治 三年	五月 三日	源頼朝下文
※ 3 (文治 三年)		五月 三日	源頼朝御教書
※ 4 (正平十二年)		十月 五日	島津師久書狀
※ 5		四月 十日	島津元久書狀
※ 6		二月 晦日	島津忠国書狀
7	天文十二年	三月廿七日	牛屎実元覚書

牛屎氏系図

鹿児島県史料編さん関係者

史料編さん 東京大学 史料編纂所所長 石上英一

東京大学 史料編纂所教授 宮地正人

尚古集成館前館長 芳即正

鹿児島大学名誉教授 五味克夫

委員 安藤保晋 哲哉

原口泉 日限正守

三木靖 宮下満郎

山田尚二 堂満幸子

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館長 今吉弘

調査史料室 尾口義男

学芸専門員 林匡

資料調査員 荒田邦子 那加野文恵

濱田亜樹子 樋渡美佳子

初木奈津子 山元千華

鹿児島県史料 旧記録録拾遺伊地知季安著作史料集三

平成13年1月10日印刷 非売品  
平成13年1月31日発行

編集 鹿児島県歴史資料センター黎明館  
発行 鹿児島県

印刷所 株式会社 きょうせい